

平成 29 年度

邦楽地域活性化事業
報告書



一般財団法人 地域創造
Japan Foundation for
Regional Art-Activities

■はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成や、公立文化施設の活性化を図るための各種事業を実施しています。

これらの事業の一環として地域創造では、平成21年度のモデル事業実施を経て、平成22年度より、邦楽地域活性化事業に取り組んでいます。

邦楽地域活性化事業は、地域創造がこれまで取り組んできた公共ホールを拠点とした地域交流プログラムに関するノウハウと、日本の伝統文化への取り組みを踏まえ、地域創造と都道府県や政令指定都市の中核ホールが共同で、研修会や域内市町村等でのアウトリーチ、コンサートなどの事業を実施し、地域に邦楽の特色を活かしたアウトリーチの手法および事業展開のノウハウを蓄積することを目指すものです。

この報告書は、公益財団法人熊本県立劇場及び中央設備 ステージ・ラボ共同体、一般財団法人山鹿市地域振興公社、一般社団法人天草市芸術文化協会との共催により実施された平成29年度邦楽地域活性化事業の内容を取りまとめたものです。

報告書の中では、主催団体および市町村ホールの担当者による成果や反省点・課題等についての報告をケーススタディとして掲載しました。また、コーディネーター並びに演奏家によるレポートと研修会やアウトリーチ、コンサートに参加された方々のアンケート結果を掲載しました。

全国の地方公共団体ならびに公共ホールのみなさまにおかれましては、ぜひ邦楽に関する地域交流プログラムも含めた自主事業にお取り組みいただき、本報告書をご活用いただければ幸いです。

一般財団法人地域創造

目次

I. 邦楽地域活性化事業概要	5
1. 事業の仕組み	6
2. 事業の流れ	7
3. これまでの経緯	8
II. 平成29年度 事業記録	9
1. 事業体制	10
2. 演奏家プロフィール	11
3. 全体スケジュール	12
4. 全体研修会	13
5. 現地地下見	14
6. 手法開発研修会	14
7. 地域交流プログラム	16
8. 総括公演プログラム	17
II-2. 平成29年度 アウトリーチ進行シート 児玉 真	19
III. 平成29年度 事業報告	27
アドバイザー総評 本田 恵介	28
1. 主催団体報告	
ディレクター 宮家 郁子 (公益財団法人 熊本県立劇場)	30
担当者 貴田 雄介 (公益財団法人 熊本県立劇場)	31
2. 地域交流プログラム報告	
①山鹿市	
コーディネーター 谷垣内 和子	32
八千代座 石橋 和幸	33
演奏家代表 本間 貴士	34
プログラムの様子・アンケート	35
②荒尾市	
コーディネーター 米澤 浩	37
荒尾総合文化センター 田中 三木夫	38
演奏家代表 渡部 祐子	39
プログラムの様子・アンケート	40
③天草市	
コーディネーター 楠瀬 寿賀子	42
天草市民センター 湯貫 登	43
演奏家代表 神 令	44
プログラムの様子・アンケート	45
IV. 平成29年度 事業資料	47
平成29年度邦楽地域活性化事業 実施要綱	48

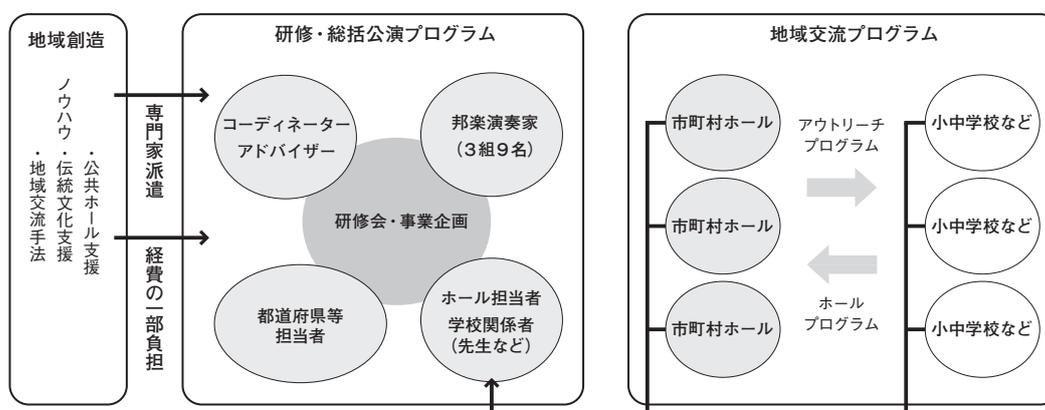
I . 邦楽地域活性化事業概要

1 事業の仕組み

都道府県・政令指定都市等と地域創造の共催で、公共ホールを中心に若手邦楽演奏家による各種プログラムを実施します。

実施都道府県内で選ばれた市町村ホールや、政令指定都市内の場合は管内の複数のホールが、それぞれ地元の学校向けに、アウトリーチと呼ばれる1クラス単位の教室での鑑賞型事業や、ホールでのワークショップなどの地域交流プログラムを行います。都道府県・政令指定都市等は、事業の実施に向けて様々な研修会などを開催しながら事業を統括し、最後に全演奏家が出演するコンサートを開催します。

地域創造からは、演奏家に加え地域の芸術活動や企画制作に詳しいコーディネーター・アドバイザーなどの専門家を派遣し、ノウハウの提供や事業全般のサポートを行います。



■事業の目指すもの・期待される効果

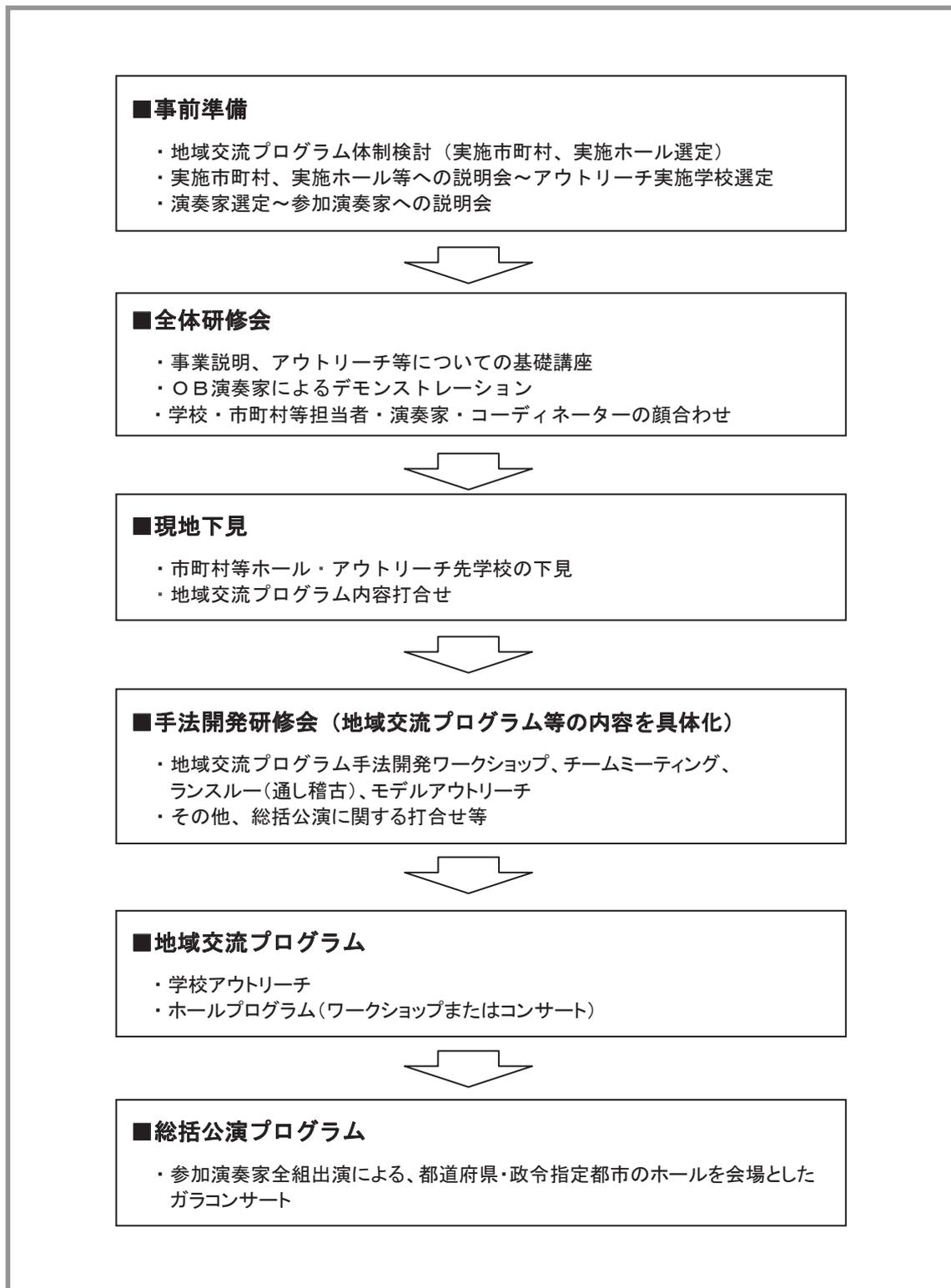
- 公共ホールが邦楽事業に関するノウハウを獲得することで、学校等地域からの邦楽に関するニーズに応えられるようになることを目指します。また、都道府県等の公共ホールを核とした市町村立ホールのネットワークづくりや人材育成、邦楽を通じた学校と公共ホールの連携促進につなげます。
- 地域の子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽のすばらしさを伝え、同時に、邦楽の演奏家や指導者、教育関係者、ホール職員にアウトリーチをはじめとした地域交流プログラムの手法を獲得してもらうことにより、地域での邦楽への取り組みの幅を広げ、邦楽の継承発展を目指します。

■経費負担

- (1) 地域創造が直接負担する経費
演奏家の事業参加に係る報酬(出演料、謝金等を含む)、派遣に係る交通費(現地移動費を除く)、宿泊費、日当、派遣に係る傷害保険料。その他演奏家に対する現地までの楽器運搬費の補助。
- (2) 実施団体からの請求にもとづき、地域創造が負担する経費
 - ① 都道府県・政令指定都市等が支出した研修会、総括公演等実施に係る経費のうち対象とするものにつき、合計450,000円まで
 - ② 市町村等が支出した地域交流プログラム実施に係る経費のうち対象とするものにつき、1団体あたり50,000円まで
- (3) 地方公共団体等が負担する経費
上記以外の経費。具体的には、演奏家の現地移動費及び現地での楽器の輸送(宿泊先から学校・ホール間など)に係る経費等は各実施団体の負担となっています。

※P.44「平成29年度邦楽地域活性化事業 実施要綱」参照

2 事業の流れ



3 これまでの経緯

	実施地域	主催団体	チーフ コーディネーター	アドバイザー	地域交流 プログラム 実施団体	演奏家	コーディネーター
平成21年度 (モデル事業)	島根県	島根県、(財)島根県文化振興財団	児玉真	-	益田市	山野安珠美(箏曲)、市川慎(箏曲)、小池摩美(箏曲)	米澤浩
					雲南市	奥山益勢(箏曲)、佐久間景子(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
					津和野町	片岡リサ(箏曲)、岡村慎太郎(箏曲)、清野樹盟(尺八)	壺岐達朗
平成22年度	熊本県	熊本県、(財)熊本県立劇場	児玉真	杵屋五司郎	荒尾市	佐藤亜美(箏曲・尺八)、木村麻耶(箏曲)、町田光(箏曲)	米澤浩
					人吉市	菊央雄司(箏曲)、伊藤志野(箏曲)、小林静純(尺八)	山崎篤典
					宇城市	澤村祐司(箏曲)、利根英法(箏曲)、見澤太基(尺八)	谷垣内和子
平成23年度	埼玉県	埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団	児玉真	米澤浩(兼務)	入間市	吉川由里子(箏曲)、佐々井麻矢(箏曲)、平野寿里(箏曲)	山崎篤典
					富士見市	藤井佐和(箏曲)、武田旺山(尺八)、中小路奈都子(箏曲)	米澤浩
					川口市	鈴木真為(箏曲)、千葉暢(箏曲)、樋口千清代(箏曲)	谷垣内和子
平成24年度	千葉県	アートプレックスちば事業体	児玉真	谷垣内和子	中央区	中香里(三味線)、五十川真子(三味線)、河野紫(三味線)	山崎篤典
					若葉区	伊藤麻衣子(箏曲)、木場大輔(胡弓)、麻植理恵子(箏曲)	米澤浩
					美浜区	朝香麻美子(箏曲)、佐々木千香能(箏曲)、小間夕起子(箏曲)	吉田真由美
平成25年度	徳島県	徳島県、(公財)徳島県文化振興財団	児玉真	山崎篤典	海陽町	横山佳世子(箏曲)、鎌田美穂子(箏曲)、平田紀子(箏曲)	米澤浩
					小松島市	岡本慎太郎(箏曲)、山形光(箏曲)、黒田静鏡(尺八)	谷垣内和子
					吉野川市	日吉章吾(箏曲)、光原大樹(箏曲)、田嶋謙一(尺八)	吉田真由美
平成26年度	富山県	(公財)富山県文化振興財団、(公財)高岡市民文化振興事業団、(公財)射水市文化振興財団、(公財)砺波市花と緑と文化の財団	児玉真	伊藤由貴子	砺波市	黒川真理(箏曲)、平田紀子(箏曲)、石田真奈美(箏曲)	本田恵介
					高岡市	花岡操聖(箏曲)、荒井美帆(箏曲)、内藤美和(箏曲)	谷垣内和子
					射水市	吉澤延隆(箏曲)、マクイーン時田深山(箏曲)、中島裕康(箏曲)	米澤浩
平成27年度	実施せず						
平成28年度	島根県	(公財)しまね文化振興財団、(公財)浜田市教育文化振興事業団、(公財)江津市教育文化財団	児玉真	山崎篤典	浜田市	石田真奈美(箏曲)、藤高理恵子(琵琶)、田野村聡(尺八)	米澤浩
					江津市	日原暢子(箏曲)、川村葵山(尺八)、渡部祐子(箏曲)	楠瀬寿賀子
					益田市	樋口千清代(箏曲)、三橋乙勢(箏曲)、森田博代(箏曲)	谷垣内和子
平成29年度	熊本県	(公財)熊本県立劇場、一般財団法人山鹿市地域振興公社、中央設備ステージ・ラボ共同体、一般社団法人天草市芸術文化協会	児玉真	本田恵介	山鹿市	本間 貴士(二十五絃箏、十七絃、作曲)、多田 彩子(二十五絃箏、薩摩琵琶)、澄川 武史(横笛)	谷垣内和子
					荒尾市	渡部 祐子(箏、三絃、十七絃) 本田 浩平(津軽三味線) 田辺 しおり(尺八)	米澤浩
					天草市	神 令(尺八)、田嶋 謙一(尺八)、青木 琳道(尺八)	楠瀬寿賀子

Ⅱ. 平成29年度 事業記録

1 事業体制

◎主催団体：公益財団法人熊本県立劇場、一般財団法人山鹿市地域振興公社（八千代座）、中央設備 ステージ・ラボ共同体（荒尾総合文化センター）、一般社団法人天草市芸術文化協会（天草市民センター）◎共催団体：一般財団法人地域創造

◎実施日程：平成29年8月9日～平成30年2月4日

◎ディレクター [主催団体の責任者]

宮家 郁子（公益財団法人熊本県立劇場 事業グループ グループ長）

◎チーフコーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

児玉 真（一般財団法人地域創造 プロデューサー）

◎コーディネーター [地域創造の派遣する専門家]

谷垣内 和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部 企画室長）…山鹿市担当

米澤 浩（邦楽演奏家、NPO法人日本音楽集団 副代表）…荒尾市担当

楠瀬 寿賀子（音楽企画コーディネーター）…天草市担当

◎アドバイザー [地域創造の派遣する専門家]

本田 恵介（公益財団法人熊本県立劇場 理事・事務局長）

◎演奏家

本間 貴士（二五絃箏・十七絃、作曲）、多田 彩子（二五絃箏・薩摩琵琶）、澄川 武史（横笛）…山鹿市担当

渡部 祐子（箏・三絃・十七絃）、田辺 しおり（尺八）、本田 浩平（津軽三味線）…荒尾市担当

神 令（尺八）、田嶋 謙一（尺八）、青木 琳道（尺八）…天草市担当

■プログラム一覧

◎研修プログラム

実施内容	実施日	会場
全体研修会	8月9日（水）	熊本県立劇場（24名）
手法開発研修会	10月10日（火）～10月13日（金）	熊本県立劇場 熊本市立大江小学校他（90名）

◎地域交流プログラム

実施団体	担当演奏家等	内容	実施日	学校、ホール名	参加者数
山鹿市	本間 貴士 多田 彩子 澄川 武史 <コーディネーター> 谷垣内 和子	アウトリーチ①	11月30日（木）	平小城小学校	35名
		アウトリーチ②	12月1日（金）	鹿北小学校	28名
		アウトリーチ③	12月1日（金）	鹿北小学校	16名
		アウトリーチ④	12月1日（金）	鹿北小学校	27名
		ワークショップ	12月2日（土）	八千代座	23名
荒尾市	渡部 祐子 田辺 しおり 本田 浩平 <コーディネーター> 米澤 浩	アウトリーチ①	12月12日（火）	八幡小学校	41名
		アウトリーチ②	12月12日（火）	平井小学校	49名
		アウトリーチ③	12月13日（水）	万田小学校	31名
		アウトリーチ④	12月13日（水）	万田小学校	32名
		コンサート	12月14日（木）	荒尾総合文化センター	653名
天草市	神 令 田嶋 謙一 青木 琳道 <コーディネーター> 楠瀬 寿賀子	アウトリーチ①	1月11日（木）	浦和小学校	25名
		アウトリーチ②	1月11日（木）	浦和小学校	16名
		アウトリーチ③	1月12日（金）	五和小学校	38名
		アウトリーチ④	1月12日（金）	志岐小学校	35名
		コンサート	1月14日（日）	天草市民センター	78名

・アウトリーチプログラム参加者数 461名（モデルアウトリーチ90名、地域交流プログラムアウトリーチ371名）
・ホールプログラム参加者数 731名

◎総括公演プログラム

実施内容	実施日	会場	入場者数
ガラコンサート	2月4日（日）	熊本市男女共同参画センターはあもにい	319名

2 演奏家プロフィール

◎：代表者

[山鹿市担当]

◎本間 貴士 [代表者]二十五絃箏・十七絃・作曲

群馬県出身。3歳より箏、12歳より三味線の手解きを母に受ける。17歳から作曲を手掛ける。演奏解釈を水野利彦氏、野坂操壽氏に師事。各メディア出演、楽曲の委嘱制作や個人での演奏活動等、関東圏を中心に日本各地で様々な形態での活動を行い“日本”を表現する作曲を心掛けている。第7回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門第一位、並びに理事会賞受賞。生田流箏曲美音会主宰補佐。(公社)群馬三曲協会理事。水野箏曲学院本部所属。

◎多田 彩子 二十五絃箏・薩摩琵琶

広島市出身。3歳でピアノを始め、高校生の時箏に出会う。桐朋学園芸術短期大学芸術科、専攻科、研究生、特別研究生修了。箏、二十五絃箏を野坂操壽氏、滝田美智子氏に師事。薩摩琵琶を坂田美子氏に師事。第17回賢順記念全国箏曲コンクールにて岸邊成雄賞受賞。生田流箏曲松の実會師範。東京都立上水高校箏曲講師。(公社)日本三曲協会、生田流協会、各会員。ONCER、虹“KOU”、各メンバー。メディア、CD等の収録に参加。

◎澄川 武史 横笛

鳥根県益田市出身。幼い頃、鳥根県西部に伝わる郷土芸能「石見神楽」の笛を吹きはじめ、後に本格的に日本の伝統音楽を学ぶ。桐朋学園芸術短期大学日本音楽専修卒業。東京藝術大学別科邦楽囃子(笛)修了。笛を中川善雄、西川浩平の両師に師事。邦楽演奏会、舞踊会、落語会のほか、映画やNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」、京都上賀茂神社にて上演された宮本重門演出奉納劇「降臨」に出演。様々なジャンルのアーティストと共演する。

[荒尾市担当]

◎渡部 祐子 [代表者]箏・三絃・十七絃

6歳より坂田和歌子氏に箏・三絃の手ほどきを受け、後に山川玉枝、芦垣美穂の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部邦楽科生田流箏曲専攻卒業。東海大学大学院修了。第14回賢順記念全国箏曲コンクールにて賢順賞受賞。ソロでの活動の他、ユニットやオーケストラに所属し、日本各地でのイベント、演奏会や、海外公演に出演。NHK教育テレビ「芸能花舞台」、NHK WORLD、NHK BSプレミアムなどメディア出演多数。宮崎大学教育学部非常勤講師。

◎田辺 しおり 尺八

東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修了。古典のステージの他、劇団との共演や東京スカイツリー開業レセプション、Rio 2016 Debriefingのスペシャルイブニング等のイベントに出演。現在、国内外にてステージ・レコーディング・指導活動につとめ、尺八本来の持ち味を大切にしながらジャンルにとらわれない活動を行っている。桐朋学園短期大学日本音楽尺八科非常勤講師。都山流師範。(師範名：恵山)

◎本田 浩平 津軽三味線

熊本県熊本市出身。15歳の時に福居流津軽三味線の福居慶大氏に師事。古典的な津軽三味線の独奏、民謡の伴奏だけではなく、和太鼓、尺八、奄美島唄、フラメンコ等ジャンルを問わずコラボレーションを行う他、ゲーム音楽への参加など幅広い分野に活動の場を広げている。津軽三味線・Piano・Percussionとのトリオ「がむしゃら」としても精力的に活動中。津軽三味線コンクール全国大会準優勝。

[天草市担当]

◎神 令 [代表者]尺八

1980年東京生まれ。現代邦楽研究所本科修了。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学院音楽研究科(尺八専攻)修士課程修了。2007～2009年、2015年～現在、同大学邦楽科教育研究助手を務める。琴古流協会常任理事、公益社団法人日本三曲協会、虚無僧研究会会員。2009年CDアルバム「アマルガム～尺八とピアノ～」(フォンテック)を発売。2012年ソロCDアルバム「尺八古典本曲 神令」(日本伝統音楽文化振興財団)を発売。

◎田嶋 謙一 尺八

12歳より尺八を始め、父である田嶋直士に師事。2006年、東京藝術大学邦楽科尺八専攻卒業。2009年～2012年同大学教育研究助手。2014年、自身初のリサイタルで第69回文化庁芸術祭新人賞受賞。日本各地及び海外で古典を中心とした数々の演奏。その他にもジャズ、クラシック、ポップス等様々なジャンルの音楽とコラボレート、母校や立正大学等の教育機関及び各種イベントの尺八に関する特別講義など多方面にわたり活動。

◎青木 琳道 尺八

1988年佐賀県出身。15歳より琴古流尺八をはじめ、17歳より徳丸十盟師に師事。徳丸十盟師尺八演奏会インド尺八巡礼に参加。ニューデリー、バンガロール、コルカタ、ハイデラバード、チェンナイにおいて演奏。市川市新人コンクール邦楽部門において優秀賞受賞。ロシア、サンクトペテルブルグ音楽祭International Conservatory Week Festivalに参加。東京藝術大学音楽学部邦楽科尺八専攻卒業。同大学院修士課程修了。長谷校校くまもと全国邦楽コンクール奨励賞受賞。

3 平成29年度邦楽地域活性化事業全体スケジュール

項目	平成29年度（熊本県） 実施スケジュール	出席者	
<p><市町村ホール担当者への事業説明会> 場所：熊本県立劇場 内容： (1) 事業の概要説明・事業説明 (2) 実施担当者等の実務について (3) 質疑応答</p>	2017年2月10日	県ディレクター、県担当者、3市ホール担当者、 チーフコーディネーター、地域創造担当者	
<演奏家面談会>	2017年3月27、28日	候補演奏家、県ディレクター、 チーフコーディネーター、 地域創造担当者	
<p><コーディネーター会議> 内容： (1) 本年度の事業概要について （演奏家のチーム編成および担当 地域、担当コーディネーターなど） (2) 各プログラムの内容について (3) 今後のスケジュール</p>	2017年6月19日	県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者	
<p><演奏家への事業説明会> 場所：地域創造 内容： ・自己紹介 ・事業概要説明 ・邦楽アウトリーチに係るレクチャー ・各プログラムの内容について ・事務説明（諸手続等について） ・チーム打合せ</p>	2017年6月19日	演奏家、 県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者	
<p><全体研修会&市町村現地下見> 場所：熊本県立劇場 内容（全体研修会）： ・事業の概要について ・チーフコーディネーターレクチャー ・OB演奏家によるORデモンストレー ション ・コーディネーター座談会 内容（現地下見）： ・学校下見&打合せ ・3市ホール下見&打合せ</p>	2017年8月9日～10日 →8月9日：全体研修会 →8月10日：現地下見	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 県ディレクター、県担当者、 3市ホール担当者、 学校関係者、県内邦楽関係者、 ほか外部参加者（研修会のみ）、 地域創造担当者	
<p><チーム会議> 場所：チームごとに決定 内容：地域交流プログラム案の作成</p>	各チーム8・9月中に実施	演奏家、コーディネーター	
<p><手法開発研修会> 場所：熊本県立劇場 内容： ・プログラム手法開発WS ・チームミーティング ・ランスルー ・総括公演打合せ ・モデルアウトリーチ</p>	2017年10月10日～10月13日 →10月11日：中間発表 →10月12日：ランスルー →10月13日：モデルアウトリーチ	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、 県ディレクター、県ホール担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者	
<p><地域交流プログラム> 場所：3市学校&ホール 内容： ・学校アウトリーチ（各市4クラス） ・ホールワークショップ</p>	本間チーム （山鹿市）	2017年11月30日：アウトリーチ 2017年12月1日：アウトリーチ 2017年12月2日：ワークショップ	演奏家、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 県ディレクター、 県担当者、 3市ホール担当者、学校関係者、 地域創造担当者
	渡部チーム （荒尾市）	2017年12月12日：アウトリーチ 2017年12月13日：アウトリーチ 2017年12月14日：コンサート	
	神子チーム （天草市）	2018年1月11日：アウトリーチ 2018年1月12日：アウトリーチ 2018年1月14日：コンサート	
<p><総括公演プログラム> 場所：熊本市男女共同参画センターは あもにい 内容：参加演奏家全組によるガラコン サート</p>	2018年2月2日～2月4日 →2月2日：合同演奏曲練習 →2月3日：リハーサル →2月4日：ゲネプロ、本番	演奏家、 県ディレクター、県担当者、 チーフコーディネーター、コーディネーター、 アドバイザー、地域創造担当者	
<p><総括会議> 内容：事業の振り返り、次年度への提 言</p>	2018年3月23日	県ディレクター、チーフコーディネーター、 コーディネーター、地域創造担当者	

4 全体研修会

全体研修会は、ホール担当者、行政担当者、アウトリーチ先の学校関係者と、コーディネーター、演奏家等、事業の関係者が全員集まって行うキックオフミーティングです。

今年度は、事業の関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや文化行政担当者、地域の邦楽関係者にも参加を募り、手法開発研修会や総括公演プログラムの会場となる熊本県立劇場で行われました。

研修会の内容は、本事業の趣旨や流れ、準備作業内容の確認のほか、チーフコーディネーターの児玉真さんによるレクチャー、前年度参加アーティストによるアウトリーチデモンストレーション、本事業に参加するコーディネーターの座談会で構成されました。

邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についての理論的な講義の後には、参加者を生徒に見立てたアウトリーチデモンストレーションで、アウトリーチの具体的なイメージをつかみました。また、コーディネーター・アドバイザーによる各プログラムの意義や取り組み方、その効果などを語る座談会を開催し、参加者はアウトリーチや本事業への理解をより深めました。

- 1 日 時 平成29年 8月9日(木) 13:30～17:00
- 2 会 場 熊本県立劇場
- 3 出席者 熊本県立劇場2人、市町村ホール担当者4人、演奏家9人、チーフコーディネーター1人、コーディネーター3人、アドバイザー1人、地域創造3人、県外ホール担当者1人、他1名 計24人

4 スケジュール

- 主催者挨拶 公益財団法人熊本県立劇場理事・事務局長 本田 恵介
1. 事業概要説明 地域創造主事 阿比留 ひろみ
 2. チーフコーディネーターレクチャー 地域創造プロデューサー 児玉 真
 3. アウトリーチデモンストレーション
平成28年度参加演奏家：樋口 千清代、三橋 乙勢、森田 博代（箏曲）
 4. 質疑応答など
 5. コーディネーター座談会



チーフコーディネーターレクチャー



アウトリーチデモンストレーション

5 現地下見

現地下見は、ホール担当者と演奏家、コーディネーターが、手法開発研修会での地域交流プログラムの内容づくりに向けて、すべてのアウトリーチ実施校と市町村等ホールの視察と現地打合せを行うものです。

学校下見では、演奏家とコーディネーターが教室の広さや使える設備を最終確認するとともに、学校関係者との現地打合せを行います。また、ホール下見では、コンサート会場については舞台関係や進行の確認を、ワークショップ会場については広さにあわせて体験用の楽器の数や参加人数の上限などを決め、手法開発研修会でのプログラムづくりに反映させます。

今年度の現地下見は、全体研修会の翌日にスケジュールを組み、できるだけ多くの演奏家が参加できるようにすることで、担当する市での地域交流プログラムのイメージ共有に努めました。

6 手法開発研修会

手法開発研修会は、コーディネーターと演奏家がホール担当者と共に、地域交流プログラムの内容について、現地下見で確認した市町村等ホールや学校の状況とニーズを踏まえ、合宿形式で集中的にプログラムづくりを行うものです。

今年度は3泊4日の日程で、熊本県立劇場を会場に実施しました。

まず、演奏家とコーディネーターは、熊本県立劇場および地域交流プログラムの実施団体のホール担当者とともに、担当する市毎のチームに分かれ、地域交流プログラムで訪れる小学校でのアウトリーチの構成を緻密に練り上げる作業を行いました。中間発表やランスルーでは、関係者全員で意見を出し合い、内容をブラッシュアップしました。

最終日には熊本市立大江小学校でモデルアウトリーチを実施し、研修の成果を確かめました。

1 日 時 平成29年10月10日(火)～10月13日(金)

2 会 場 熊本県立劇場

3 スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目
8:00	各チームごとに分かれて実施			
9:00		チーム研修 (会場B)	チーム研修 (会場B)	大江小 アウトリーチ準備 9:00～10:30
10:00				モデルアウトリーチ① 10:30～11:15
11:00				転換
12:00		昼食	昼食	モデルアウトリーチ② 11:35～12:20
13:00		チーム研修 (会場B)	ランスルー準備	昼食・転換
14:00	開講式& オリエンテーション (会場A)	中間発表① 14:00～15:00 (会場B)	ランスルー① 13:30～14:40 (会場C)	モデルアウトリーチ③ 14:00～14:45
15:00	楽器開梱・研修準備		休憩(20分)	撤収・移動
16:00	チーム研修 (会場B)	中間発表② 15:30～16:30 (会場B)	ランスルー② 15:00～16:10 (会場C)	反省会&開講式 (会場A)
17:00		中間発表③ 17:00～18:00 (会場B)	休憩(20分)	
18:00	撤収		ランスルー③ 16:30～17:40 (会場C)	解散
19:00		全体ミーティング(総括公演等) 18:30～20:00 (会場A)	チームミーティング (会場B)	
20:00		撤収	撤収	



ランスルーの様子



中間発表の様子



ランスルーの様子



ランスルーの様子



モデルアウトリーチの様子



モデルアウトリーチの様子



モデルアウトリーチの様子



モデルアウトリーチの様子

7 地域交流プログラム

山鹿市

実施団体：八千代座（指定管理者：一般財団法人山鹿市地域振興公社）

担当者：石橋和幸

演奏家：本間貴士・澄川武史・多田彩子

コーディネーター：谷垣内和子

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	11月30日（木）	平小城小学校	35名
アウトリーチ②	12月1日（金）	鹿北小学校	28名
アウトリーチ③	12月1日（金）	鹿北小学校	16名
アウトリーチ④	12月1日（金）	鹿北小学校	27名
ワークショップ	12月2日（土）	八千代座	23名

荒尾市

実施団体：荒尾総合文化センター（指定管理者：中央設備ステージ・ラボ共同体）

担当者：田中三木夫

演奏家：渡部祐子・田辺しおり・本田浩平

コーディネーター：米澤浩

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	12月12日（火）	八幡小学校	41名
アウトリーチ②	12月12日（火）	平井小学校	49名
アウトリーチ③	12月13日（水）	万田小学校	31名
アウトリーチ④	12月13日（水）	万田小学校	32名
コンサート	12月14日（木）	荒尾総合文化センター	653名

天草市

実施団体：天草市民センター（指定管理者：一般社団法人天草市芸術文化協会）

担当者：湯貫登

演奏家：神令・田嶋謙一・青木琳道

コーディネーター：楠瀬寿賀子

内 容	実施日	学校、ホール名	参加者数
アウトリーチ①	1月11日（木）	浦和小学校	25名
アウトリーチ②	1月11日（木）	浦和小学校	16名
アウトリーチ③	1月12日（金）	五和小学校	38名
アウトリーチ④	1月12日（金）	志岐小学校	35名
コンサート	1月14日（日）	天草市民センター	78名

8 総括公演プログラム

地域子どもたちに日本の伝統楽器や邦楽の素晴らしさを伝える「邦楽地域活性化事業」の最終プログラムとして行われました。天草、荒尾、山鹿各市で地域交流プログラム（アウトリーチやホールプログラム）を行った若手邦楽演奏家による演奏会です。3名1組のチーム毎の演奏では、様々なアプローチで和の響きを届けることができました。メインプログラムとして作曲家川崎絵都夫氏に委嘱した「遙かなる道」では、熊本箏演奏者協会所属の7人の演奏家も加わり、全員で合奏しました。

【ガラコンサート】

日 時 平成30年2月4日(日) 14時開演
場 所 熊本市男女共同参画センターはあもに
い（設定席数371席）

演奏家

本間 貴士、多田 彩子、澄川 武史、渡部 祐子、
田辺 しおり、本田 浩平、神 令、田嶋 謙一、
青木 琳道

共 演 熊本箏演奏者協会所属の有志

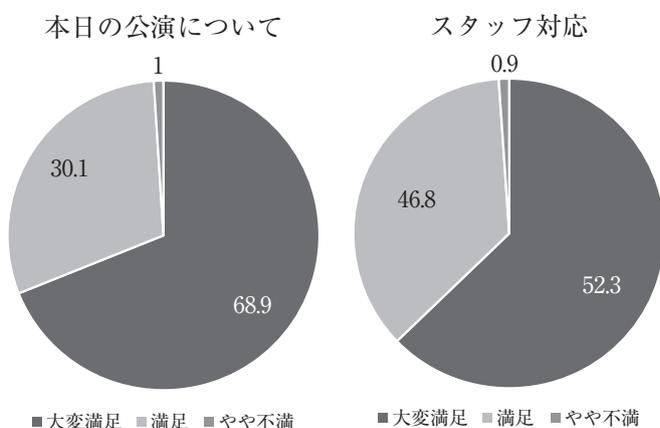
来場者数 319名

主 催 公益財団法人熊本県立劇場

共 催 一般財団法人地域創造

後 援 熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、
FMK、FM791

【参加者の声】 回答116名/319名



<感想>

- 演奏者の体力と体全部（頭から指先・足先まで使って）の演奏に感激しました。
- 和楽久しぶりでした。震災後初のお出かけで少し時間的にゆとりができ、心の時間も前に進み、良い一日が過ごせました。ありがとうございました。
- 出演者様のどの演奏もまっすぐに心に響いてくる素敵な演奏でした。とても楽しい時間を過ごすことができました。
- 心の奥に届く音楽でとても癒され気持ちが透明になりました。有難うございました。人間っていいな！！素晴らしかったです。
- 初めて熊本県立劇場の公演に来ましたが、スタッフさんの対応がとても良かったです。（開場前にきちんと並ばせたりチケットの案内をしたり、空いている席に案内したり。）

Ⅱ－2. 平成29年度 アウトリーチ進行シート

アウトリーチ進行シートの掲載に当たって

平成29年チーフコーディネーター 児玉 真

熊本の邦楽事業は2010年以來の2回目である。2回目を考えたのは熊本の震災後数か月経った時に、地域のホールの方と会ってアウトリーチへの意欲が衰えていないことを知ったからでもある。でも2回目ということで県立劇場とも話して少し内容的な冒険を試みた。今回の編成が、尺八3本、箏と琵琶と笛、箏と津軽三味線と尺八、というやや変則的になったのは、若い演者と話していて三曲スタイル以外の方向への意欲を感じたからでもある（まあ、積極的に誘導したわけではないが）。その意味ではコーディネートも大変だったと思うが、いろいろな世界を仄聞させてもらった感じがあって、ある意味での満足感はある。ただ、手法開発という意味では若干未消化な感じもあり、もう少し経験を積む機会があればと思ったことも事実である。

山鹿、荒尾、天草の各市の皆さんも楽しく支えてくださった感じで感謝している。また、今回各会館の被災後の多忙さを考え、初めて地元のコーディネーターをお願いした。坂口美由紀さんには特にアーティストが地域に入ってから現場で、制作的にとっても多くのサポートをいただいた。こういう方がコーディネーターとして自立していけるのが理想ではあるが、まだまだそこに至るには時間がかかるだろう。

さて、今回もフィールドワークとして、3組それぞれのアウトリーチの進行をメモを頼りにデータ化した。演奏家には申し訳ないが、完全に話を復元できているとはいえない。その場で子供たちと理解しあってしまう言葉のないやり取りの重要さが今回は特に際立っていたように思う（それゆえ、文字化が難しかった）。正確さには自信がないが現場の様子をある程度伝えられると思う。ご勘弁を。

1 アウトリーチ進行シート(山鹿市)

2017年12月1日	鹿北小学校6年生	
出演者	本間貴士(二十五絃箏) 澄川武史(横笛) 多田彩子(薩摩琵琶)	
曲目	内容	備考
M1	<p>入場(笛→琵琶→箏の順に弾きながら…そのままM1へ)</p> <p>本間)今日は突然始めたけれど、どうだったかな?びっくりした?かっこよかった?(はい)嬉しいね、良かった。今日は…まずこれくまもの絵>くまモンは好き?(…)え、ほかの県なら好き?(…)私は本間貴士、私はどこ出身って言った?(ぐんま)群馬はくまもんのおかげでゆるキャラ1位になった。群馬県から来た本間貴士。</p> <p>澄川)わたしは笛を吹く澄川武史です島根県から来た。</p> <p>本間)島根ってくしまねっこの絵>知ってる?(しってる)。そして真ん中の女性。</p> <p>多田)多田彩子といいます。私は野球の…<カープのマスコット>広島県出身です。今日はこの3人で箏、笛、琵琶の3つの楽器を演奏します。まず真ん中の琵琶(びわこ?)そう琵琶湖の琵琶。</p> <p>多田)琵琶にもいろいろな種類があって10種類くらいある、私が弾くのは薩摩琵琶(鹿児島県?)そう、侍が弾いていた。大きなばちでかっこいい演奏。戦いをするような感じで胴を大きくたたいて演奏した。横から見ると、ここを押し込んだり離したりして演奏する。</p>	
M<少し弾く>	<p>多田)琵琶にはいろいろな弾き方がある。これからもいろいろな弾き方をするのできいてみてください。私はピアノをやっていたのだけれど高校生の時に和楽器の箏とであって、その後大学の時に琵琶とであってこれをやろうと思った。次に笛の紹介を。</p> <p>澄川)<たくさんの笛を出す>日本の笛の紹介をしたいと思います。今日は3種類持ってきた。篠笛、神楽笛、能管。篠笛はこの袋の中全部篠笛。いろいろな長さがある。長い笛と短い笛は何が違う?(高さ)吹いてみましょう<2本吹く>。長さが長いほど低い音短いほど高い音が出る。ドレミの音が吹ける笛です。神楽笛、神楽って知っている?(はい)島根の神楽笛は篠笛と似ているが何が違う?穴の数が違う。神楽笛はわざと音をずらしている。ドレミとは吹けない。こんな音<吹く>能管も何が違う?7つの穴は篠笛と同じなだけけれどドレミが出せないようになっている<吹く>何を(お化け)能で、お化けや神様が出てくるときに演奏する。風の音とか。こういうすごく激しく大きな音も鳴らせる。音はずらせた方が上手く聞こえる</p> <p>本間)箏。漢字ではこう書く。正式には箏という。一般的な箏は弦が13本。春の海とかはこれで弾く。今日は弦が多くて何本(26、37、35、25)そう25本で倍の数があある。私は3歳からやっていたらしいが箏の奏者になろうと思っていなかった。年長の時に将来の時の夢はお釜になる事、3年の時はドングリになること、6年の時は、総理大臣。なんで今箏を弾いているかという。想像、もうひとつ創造。今日はこの二つについて知ってもらいたいと思います。意味は違っても繋がっている。こうしたい、自分が表現したい、というときに自分で曲を作ってしまうということをやりたいと思う。一曲作った曲を「知波夜夫留」この言葉知ってる?(百人一首)そう、漫画とかでも知っているかも。</p>	

<p>M2知波夜夫留</p>	<p>もう一つ琵琶湖の中にある龍神の神様がいますがそこにも書かれている。意味は「状態が激しい事」神様、人間ではない何かのこと。この言葉のイメージで私が作った曲。みんなも想像しながら聞いてください。</p> <p>本間) 激しかった? かつこいい? 最後はみんなが絶対に知っている物語を題材にして。鶴と言ったら(鶴の恩返し)</p> <p>澄川) お話は知っているよね(はい) その話のおさらいをしてみよう。鶴を助けるところから話は始まる。</p> <p>本間) でも群馬県は鶴の形をしている。</p> <p>澄川) 話を戻して… ※お話を振り返る</p>
<p>M3鶴の恩返し</p>	<p>この話はハッピーエンドでない。これを表現します。琵琶は弾き語りをする楽器。笛は幽霊だったり風のおと、どんな音がするかな。箏も激しい音もだすけど小さな音で雪のしんしんと積もっている。でもどんな想像をしても、表現を持ってても間違いではないので頭の中でイメージしてください。</p> <p>本間) 最後にもう一度今日知ってほしかった言葉。想像と創造。こんな事してみたいなあ。これからみんなもいろいろな道が待っている。わからない事があつたりすると思うけれど他の人に聞いたり調べる。気持ちを切り替えるだけで楽しく生きられると思う。今日は想像と創造字は違っても意味は繋がっていく、そういった気持ちの持ちようを持って行ってほしい。</p>

2 アウトリーチ進行シート(荒尾市)

2017年12月13日	万田小学校 6年生	
出演者	渡部 祐子 (箏・三絃・十七絃)、田辺 しおり (尺八)、本田 浩平 (津軽三味線)	
曲 目	内 容	備 考
M1夜叉舞 (箏、尺八、津軽砂 三味線)	<p>先生の挨拶 拍手～入場</p> <p>渡部) みなさんこんにちは、私たちは和楽器の演奏家です。今日はみんなと楽しい時間を過ごしてもらうために東京からやってきました。後ろに張ってあるように「和楽器ってカッコいい」をテーマに進めたいと思います。</p> <p>本田) では私たち3人のメンバーを紹介したいとおもいます箏を演奏する渡部祐子。今日はみんなに覚えてもらいやすいように「ゆうちゃん」と呼んでもらいたい。みんなで言ってみよう(ゆうちゃーん)。右手は尺八の田辺しおり、「しおりん」でみんなで呼んでみたいと思います。いくよー(しおりーん)。はい。最後は津軽三味線を演奏する本田浩平です。じゃあ僕は「ぼんちゃん」で、はい。せーの(ぼんちゃーん)。ありがとうございます。</p> <p>それぞれ自分の楽器を持ってきた。見た目も演奏方法も全然違う。まずゆうちゃんから。</p> <p>田辺) 箏のカッコいいところを聞いてほしい。この曲は「ロンドンの夜の○」というタイトルがついている。○って何だろう?と考えるながら聞いてみてください。</p>	
M2ロンドンの夜 の雨 (宮城道雄) (箏ソロ)	<p>渡部) 何だと思う? (橋?)うーん。作曲した宮城道雄さんが雨をイメージして作った。箏は爪を右手にはめてこのように弾く。左手もこのように使って指を使って音を出します。次は尺八</p>	
M3雁	<p>田辺) 尺八の音をもう一回聞いて。雁というタイトル。知らない?日本に渡ってくる鳥で2番目くらいに多いらしい。冬にこの地方にも来る。雁が群れて飛んでるのを見て感じる事とか、聞こえてくる音、のどを鳴らす声<弾く>とかを感じる事が出来る</p> <p>田辺) 尺八って何で出来る? (竹) そう、竹で出来た縦笛です。リコーダーとかやったことあるよね。尺八のポイントを二つ。まずここ「歌口」ここに息を吹きかけると音が出る。リコーダーのくわえるところがなくなったような感じ。だからこうやると音が変わる。もう一つは穴の数、合計で5つある。一つづつ開けていくと<吹く>5つの音程こうなる。でもドレミファソラシドと吹きたいよね。このようにやります<吹く>。どうやってる? 穴を半分や1/4開けたりする。もっと先生なのは首を振る。</p> <p>もっと大事なのは、息。温色を変える事が出来る。それを組み合わせて音をいろいろと作ることが出来る。言葉に出来ないもどかしい気持ちもこの楽器は伝えられるかなと思います。次に三味線の話を</p>	

	<p>本田) なんとなく和楽器かっこいいと思えてきた? (・・・) そうでもないか、この三味線見たことある。おや、ゆうちゃんも持ってきた。どっちがう? どっちが大きい。</p> <p>太鼓と一緒にばちというので弾く、ばちはどっちが大きい? <比べる></p> <p>この二つの三味線、ゆうちゃんが持っているのは地唄の三味線、私のは津軽三味線。それぞれの個性特徴もちがうので、まずゆうちゃんの地唄三味線を紹介します</p> <p>渡部) 地唄は歌いながら弾くのが特徴。もう一つこんな音びんびん言っている。今日はきつねの鳴き声、こんこん、かいかいという意味の曲を。歌詞を歌いながら演奏する、ある男の子のお母さんが狐。お母さんと泣き別れた子供が恋しくて探しに行くというはなし。</p> <p>今から300年くらい前の曲です。</p>	
<p>M4こんかい (三絃)</p>	<p>本田) 次は津軽三味線を。さっき給食で自分でかっこいいと思うことってありますか、と聞かれてないと言ったけれど、一つだけあった。演奏しているときは自分がかっこいいと思って弾いている。そうでないと聞く人に失礼。楽器のかっこいいところを二つ。一つは皮の部分もたたいている。もう一つは左手だけでも音を出している。併せて弾くことでスピード感がある音になる。では聞いてください。一番有名な「津軽じょんがら節」</p>	
<p>M5津軽じょんが ら節</p>	<p>どう? かっこよかったですか。聞いてもらったけどみんなはラッキー。今年みんなは11歳位だと思うけれど、私が12歳の時かっこいいなと思って始めた。だから、みんなが今始めたらもっと上手くなれるかもしれない。</p> <p>しおりんは?</p> <p>田辺) 尺八は鳴らすのが難しい楽器といわれているけれど、最初に弾いたらきれいな音が出てこれだ、と思って始めた。ゆうちゃんは?</p> <p>渡部) 近所に箏の先生がいて音が聞こえてきて、小学校1年の時に自分でトントンと門をたたいて習わせてください、と言いに行った。</p> <p>さいごは3人で力を合わせて弾きたい。どこかで聞いたことがあるメロディだと思う。</p>	
<p>M6私のお気に入り</p>	<p>ありがとうございます。和楽器もっと聴きたいと思った人。(・・・) もういいやと思った人(・・・) コンサートがあります<ガラコン告知></p> <p>先生、お礼</p>	

3 アウトリーチ進行シート(天草市)

2018年1月12日	五和小学校6年生	
出演者	神令(尺八)、田島謙一(尺八)、青木琳道(尺八)	
曲 目	内 容	備 考
M1呼び竹受け竹	<p>3方から入場しながら・・・</p> <p>曲が終了してお辞儀をする。</p> <p>神) おはようございます。今日は尺八という日本に古くから伝わっている楽器を紹介したいと思います。これはお祈りのための音楽。この格好は？(神社、胴着)これはお坊さんが修行をするときの胴着です。江戸時代にお坊さんの一つに虚無僧というのがいたく写真>。天蓋という深編笠をかぶって、明暗という偈箱を持ち(今でいう募金箱)、全国を回っていた。</p> <p>みんなの知っているお坊さんはお経を読むけれど、彼らはお経の代わりに尺八を吹く。</p> <p>時代劇では切られるときの効果音として使われていて、このむら息とともに切られる。虚無僧は天蓋をかぶって顔が見えないので、相手が本物かわからない。だから出会ったときこの尺八を吹いて3回以内に真似ができないと怪しいやつ!というところで切ってもよいことになっていた。</p> <p>3人で) だから私たちは「ほんもの！」</p> <p>神) まず3人の自己紹介を。私は神令といいます。私のおじいさんは津軽(今の青森県)の出身。津軽は寒くて風が強い、そんな津軽の曲を。枯れ葉がひらひらと舞う様子。</p>	
M2下がり葉	<p>青木) こんにちは。私は青木琳道といいます。琳道は芸名。みんな音楽は好き？(…)</p> <p>私はちいさいころから大好きだった。ピアノとか太鼓とか。中学校ではトランペットを吹いていたけど、なぜか尺八にたどり着いた。音を出すのが好き。さっきは青森の景色や風とかがあったけれど今度は動物。鶴。鶴を見たことある？(ある)ではの鳴き声を聞いたことある？(いいえ)鶴の声とかはばたくところとかを思い浮かべて聞いてほしい</p>	
M3鶴の巣ごもり	<p>青木) 鶴の鳴き声は分かったかな？吹きながら喉を鳴らすとこんな音が出る。鳥がバタバタと羽ばたくのはこんな音。</p> <p>田嶋) こんにちは。田島謙一です。みんなは身の回りで好きなことはある？(サッカー、寝ることなど)私は尺八を吹くことが一番好き。吹いていると楽しい気持ちになる。自分の楽しい気持ちが届くようにと演奏している。今日は自分の楽しい、を音にして吹いてみる</p>	
M4インプロビゼーション	<p>田嶋) どう？楽しそうだった？(はい)</p> <p>神) さて、尺八の音の出る仕組みはリコーダーとおんなじ。歌口に息を吹きかけて音を出す。角度が違くと音が出ない。穴は5つしか開いていないのでそのままだと5つしか音が出ない。でも指の穴が大きいので半分閉めたりすることで調整できる。</p>	

<p>M5アメージング グレース</p>	<p>また息をあてる角度を調整することでドレミファソラシド全部が吹ける<吹いてみる>。これからドレミで吹く曲を演奏します</p>
<p>M6春の海</p>	<p>田嶋) 尺八の名前の由来は一尺八寸だからという説がある。でもほかの長さの尺八もある。今日はとても長いのを持ってきた。3尺3寸。小さいのもある1尺1寸。音は？(高さが違う)聞いてみましょう。<吹く></p> <p>ここで先生に登場してもらって正月らしい曲、春の海を弾いてみたいと思います。春の海は正月にスーパーとかで聞いていると思う。宮城道雄さんという人が作った</p> <p>神さんと中学校の先生(ピアノ)の共演</p> <p>神) ここでちょっと音のクイズを。本物と偽物。ここに3つの尺八がある。一つは本物、もう一つは水道管で作った尺八、もう一つはリコーダー。目をつぶって聞き分けてみましょう。</p> <p><3つの楽器を吹いて本物当てクイズ>。</p> <p>神) 水道管もちゃんと作ったのでかなりいい音がする。それぞれの良さはあるけれども値段は違う。</p> <p>さいごにもう一曲。琴古流に伝えられてきた鹿の遠音という曲。鹿の声は聞いたことあるかな、ケーンケーンという声。それがあちらこちらから聞こえてくる</p>
<p>M7鹿の遠音</p>	<p>神) ありがとうございます。尺八を初めて聞いた人？(ほとんど)。いろいろなところで流れているので思い出して身近な楽器にしてもらえるとうれしいです。</p> <p>お礼の言葉</p>

Ⅲ. 平成29年度 事業報告

アドバイザー総評

〔(公財)熊本県立劇場 理事・事務局長 本田 恵介〕

【熊本での開催】

熊本市では例年春に長谷検校記念くまもと邦楽コンクールを開催している（平成28、29年度は熊本地震の影響により秋開催）。箏、三味線、尺八、琵琶など邦楽器全般を対象としたコンクールで、昨年11月には23回目が開催された。また、毎年秋には熊本県立劇場で各社中の枠を超えた「箏曲の祭典」が開催され200名ほどが出演しており（今年度は休止）、こちらも30回を数えている。

そういう意味では比較的邦楽の盛んな地域ともいえようが、若い愛好家が減少傾向にあるだけでなく、実際に邦楽の演奏を子どもたちが生で聴く機会は少なく、関係者の危機感が強いという意味では他県と状況は変わらない。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機に、日本の伝統文化を世界に発信しようという動きが国や自治体で進められているものの、公共ホールや学校の現場では具体的な方策がなかなか見えてこないというのが実情であろう。

熊本県立劇場では、平成22年度に邦楽地域活性化事業を実施した。これは、平成16年度に地域創造の公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業に取り組み、その後もクラシック音楽のアウトリーチ事業を継続的に取り組んできているところから、邦楽にもその活動を広げようとする取り組みである。当時、地域交流プログラムを実施した荒尾、宇城、人吉の3市では、小学生にとって馴染みが少ない邦楽器ではあったが、教師、児童のいずれからも好評であった。45分という授業の枠内で伝えたいこと、聴いてもらいたいプログラムを整理し構成すれば、子どもたちには十分伝わることが分かった。

7年ぶりにこの事業を熊本県で開催することができたのは、「平成28年熊本地震」からの復興支援という地域創造のご配慮あってのことだろう。長引く余震に、時として不安な気持ちに襲われていた子どもたちも、月日の経過とともに徐々に日常を取り戻しつつあるが、前回と同様に子どもたちはふだん馴染みのない和楽器を通して新たな驚き、発見、感動を経験できたようである。

【今回の新たな取り組み】

・地域交流プログラムの実施会場

荒尾市はホール側の強い要望もあり前回に引き続き実施したが、この事業を県内に少しでも広げようと、あとの2ヶ所は前回実施していない山鹿市と天草市とした。

両市のホール（八千代座と天草市民センター）はいずれも指定管理者による運営だが、ふだんから県立劇場スタッフとの交流も多い施設である。そのため、特に邦楽が盛んな地域というわけではなかったが、事前の準備や地域交流プログラムの実施は比較的スムーズに行うことができた。

また、演奏家とホール担当者との信頼関係も地域交流が進むごとに深められ、今回の事業を通して、今後は地域創造や熊本県立劇場を介することなく、直接演奏家とホールがやり取りして次にステップに進む可能性も生まれたようだ。

・これまでにない楽器編成

コーディネーターからも触れられると思うが、お箏3人もしくは箏、尺八、地歌三味線というこれまでのオーソドックスな編成ではなく、尺八3人や琵琶、津軽三味線、横笛といったこれまでなかった楽器が加わった。

尺八のみによるアンサンブルや琵琶、津軽三味線、神楽笛、能管など、ふだん生の音を聴いたり目の前で見たりする事の少ない楽器に触れられたことで、子どもたちの邦楽に対するイメージが広がったのではないか。

・新作の委嘱と地元との共演

前回のガラコンサートでは、地元の作曲家に曲を委嘱し、この事業に参加した9人の奏者が演奏した。当時ディレクターとして関わった私は、熊本らしさも出したいという思いで企画したが、作曲者がもともとクラシックの現代曲を中心に作曲している人であったこと、また9人が揃って練習する時間が極めて限られていたことなどから課題も残った。

今回もガラコンサートに向けて新作を委嘱することとしたが、作曲は日本音楽集団の川崎絵都夫氏に依頼した。曲づくりの前提として、地元の箏奏者7～8人も共演すること、今後いろんな地域で再演されることを期待して楽器編成をなるべくオーソドックスな形にさせていただくことをお願いした。コーディネーターの一人、米澤浩さんが日本音楽集団のメンバーということもあり、委嘱作品に関わる業務や進行の管理はスムーズに進めることができた。

一方、地元の箏奏者には、8月の全体研修会や10月の手法開発研修会には時間が許す限り参加していただくよう呼び掛けていたため、単にガラコンサートにおいて共演していただくというだけでなく、この事業の目的や全体構成を理解していただき、熊本県立劇場が地域創造の力を借りて何をしようとしているのか、把握していただいたうえで共演につなげることができた。最終的に7人の地元の先生方が出演されたが、ガラコンサートの集客においても大きな力を発揮していただいたことは言うまでもない。

【成果とまとめ】

・成果

熊本県で一番活動の盛んな邦楽器と言え、他県と同様に箏である。箏の指導者による全県的な組織である熊本箏演奏者協会は、最初に述べた「箏曲の祭典」をはじめ、「全国邦楽ジュニアコンクール」を実施するなど、積極的な活動を行っている。

しかしながら、学校教育の中では以前にもまして邦楽の位置づけが重要になってきているにもかかわらず、子どもたちが実際に邦楽に触れる機会が増えているわけではない。家族など身近に邦楽をやっている大人がいない環境で、お箏や三味線をやってみようという子どもたちがほとんどいないという状況は、一向に変わっていないのである。

さらに、これまで熊本箏演奏者協会を牽引してきた方たちがここ数年で引退したり亡くなられたりしたため、この協会も次の世代による組織体制で歩み始めたところである。

今回の事業では、そうした地元関係者の現状をにらみつつ、これからの邦楽普及に向けて劇場と民間の文化団体がどういった形で連携できるかを意識しながら事業を進めていった。

2月3日のガラコンサート前日、委嘱作品のリハーサル時間が急遽変更となったが、地元の先生方は柔軟に対応していただき7人全員がホールリハーサルに参加された。週末のことであり、多くの生徒さんを抱えた先生方にとってはかなり無理なお願いをすることになったわけだが、みなさんがコンサート本番の仕上がりを最優先に考えていただいた結果、一人も欠けることなく作曲者立会いのもと最後の仕上げに取り組むことができた。

・まとめ

この事業は、さまざまなプログラムをとおして邦楽が地域で活発に取り組まれることをめざすものである。熊本県においても、熊本県立劇場のある熊本市だけが盛んになればよいというものではないし、地域交流プログラムの多くが展開される学校現場で子どもたちだけが触れられれば良いというものでもない。

邦楽がさらに地域に広がりを持ち、多くの方たちにその魅力を感じてもらい、「もっと聴いてみたい」あるいは「私も演奏してみたい」と思ってもらえるような成果を残すことが大事であろう。

熊本県の邦楽界はいろいろな課題を抱えつつも、関係者の努力によって一層の活性化をめざしているところである。しかしながら民間の邦楽団体や学校現場だけでは、容易には乗り越えられない課題が存在する。

今回の事業に県内公共ホールが協働して取り組んだことは、これからの熊本県における邦楽普及の第一歩につながったのではないかと思う。

1 主催団体報告

ディレクター

[(公財)熊本県立劇場 事業グループ 宮家 郁子]

熊本県立劇場は、第1回にあたる平成22年度に邦楽地域活性化事業に取り組みました。平成16年度から本格的に取り組んできたクラシック音楽のアウトリーチ事業のノウハウはかなり蓄積されていまして、日頃から県内の公共ホールと連携して様々な事業を実施してきたネットワークを活かせる、まさに打ってつけの事業と捉えて取り組んだことを、今でも覚えています。

その当時、事業終了後に成果や今後の展望について考察し、県立劇場として邦楽を普及するというミッションをもって取り組むこと、県内の若手邦楽演奏家の育成も含めた事業展開を検討することなどが挙げられました。その後県立劇場で取り組んできた邦楽地域普及事業を検証するうえでも、今年度本事業に取り組めたことは大きな意味がありました。これまでの事業実績と合わせて、本事業について振り返りたいと思います。

第1回を実施した翌23年度から、県立劇場で行う演奏家派遣アウトリーチ事業は洋楽と邦楽の両ジャンルで取り組んできました。平成25年度までの3年間は市町村との共催により小学校で邦楽アウトリーチを実施。総数450人の子どもたちが邦楽に触れる貴重な時間でした。

また本事業をきっかけに平成23年度からスタートした邦楽ワークショップは継続して開催している人気事業のひとつで、横笛、鳴り物、薩摩琵琶、三味線ほか様々な邦楽器に触れ、音を出し、合奏体験の機会も設けるなど、これまでに子どもから大人まで2,000人を超える参加者が体験しました。

そのほか、小学校教諭を対象とした熊本市小学校音楽研究会邦楽器講習会や、野坂操壽、沢井一恵の両巨匠を招いての演奏会など、「邦楽」というツールを使い事業を展開してきました。

全体の事業規模から見ると小さいものの、①アウトリーチを通して邦楽器の迫力や音色の美しさを、演奏家の言葉で子どもたちに伝える機会、②地域住民や子どもたちが、普段目にする機会の少ない邦楽器に触れ、実際に音を出す体験をする機会、③トップクラスの邦楽演奏家による演奏を専用ホール（劇場）で鑑賞する機会、④地元の邦楽演奏家がアウトリーチの手法を学び、邦楽を広める機会、⑤県内市町村ホール職員と連携して事業を進めることで、新たなネットワークを構築し、ホール職員自身がコーディネーターとして、またディレクターとしてのノウハウを習得する機会、と本事業を通して得られた効果は計り知れません。二回目だからこそ冷静に分析することができまして、新たな課題を見つけることもできました。劇場や公共ホールに求められるミッションは多岐にわたります。舞台芸術を鑑賞する機会、熊本県民の誰もが文化芸術に触れることができるための普及啓発、そしてアーティストの育成をはじめ、文化芸術を守り、継承するためのホール職員の人材育成ほか、この事業の目的と何のため（誰のため）、そして効果をどこで測り、どう次につなげていくのか。邦楽事業に限らずすべての事業について検証し、次につなげていくことが舞台芸術、そして地域を活性化していくことにつながると考えます。

これまで熊本県立劇場で取り組んできた邦楽地域普及事業は「熟成期」を迎えています。ただ、同じことをやり続けていく中にもマイナーチェンジを行い、ときには立ち止まり、または方向転換することも必要です。この邦楽地域活性化事業を通して、たくさんの学びや気づきを得ることができました。これからもアーティストの力を信じ、地域創造のノウハウを活かして事業にあたります。地域に還元していくことで、文化芸術においても豊かな熊本県を目指し、今後この事業に携わった皆さんへ恩返しができるよう努めたいと思います。

1 主催団体報告

担当者

[(公財)熊本県立劇場 事業グループ 貴田 雄介]

1. 事業全体に対する所感

熊本県立劇場では平成22年に邦楽地域活性化事業を実施しており、今年度は2度目の取り組みでした。事業全体を通して、邦楽に魅力に触れられてとても意義深かったです。アウトリーチ、ワークショップ、コンサートの全てにおいて邦楽器の仕組みや音の奥深さを感じられる素敵なプログラムだったので、アウトリーチに参加する児童のような気持ちで邦楽の魅力を発見していくことができました。

劇場事業としてクラシックのアウトリーチ事業に関わった経験から、クラシックと比較して邦楽は普及させるのが難しいということをお聞きしますが、課題は邦楽自体にあるのではなく、単純に、観客が邦楽に触れる機会が少ないという点にあるように感じました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

実施決定が、今年度の事業予定が概ね決定した後だったこともあり、1年にわたり複数のプログラムを実施する本事業と他の事業が重なり、半数のスタッフで当たらなければならないことがあり、その点は地域創造スタッフの皆様にご協力いただきが多かったと思います。また、事業の全体像の把握に時間がかかりました。2月に市町村ホール担当者への説明会を開催していただきましたが、年度が変わり担当者の変更などもあり、事業の始めの段階での事業の全体像の把握と共有に苦労しました。また、ガラコンサートの集客に苦労しました。内容に対してチケット料金を格安に設定したため満席になるだろうという感触はありましたが、観客の反応が薄かったため、公演直前までとても不安でした。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

事業の全体像の把握のために、熊本のコーディネーターの坂口さん(※)と連携して、各市担当者に事業全体像について理解してもらうために、写真を多用した書類を作成し、電話連絡により不明点を解消するようにしました。集客に当っては、地元の熊本箏演奏者協会、出演者の渡部祐子さん(熊本出身)、山鹿での地域プログラムに協力してくれた小路永さんなど、熊本市内の邦楽関係者、ファンと繋がりを持つ人にチケットを委託することが券売に繋がったと思います。事業予算の中でも広報に充てられる予算が少なかったため、市内での邦楽公演へのチラシ折込や、中学・高校・大学の箏曲部などへの連絡など費用をかけず、出来るだけ効果的な広報に取組みました。※今年度熊本県は震災復興支援ということで、現地のコーディネーターを特例的に設置。熊本県立劇場と3市の間の調整等をサポート。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

地域交流プログラムでアウトリーチに参加した多くの児童が邦楽の演奏を楽しみ、「邦楽に興味を持った、邦楽を好きになった」という感想を持っていました。クラシック音楽と比べて邦楽に触れる機会が少ないので、この事業の貴重さを感じました。地元の出演者の協力もあり、総括公演で目標人数を上回る集客を得られました。邦楽事業でも、継続して取り組むことで、観客を増加させられる可能性を感じました。また、地域交流プログラムに参加した市町村ホール担当者から、今回の成果への満足感から、「多少の苦労があっても創造的な事業を実施していきたい」と、今後新しい事業に取り組むことに前向きな意見を聞いたことが嬉しかったです。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

熊本県立劇場では、毎夏、熊本県芸術文化祭オープニングステージを開催していますが、劇場が主体的に内容を構築していくことが出来る大きな事業です。平成30年度は「邦楽」をテーマにすることが決まっております。熊本県内の邦楽の普及に繋がる事業とすることを目指します。今回の邦楽地域活性化事業を通して出来た、熊本箏演奏者協会、和楽器屋さん、運送屋さんなどの関係者とのつながりを活かしたいと思っております。また、熊本県立劇場では、前回の平成22年の邦楽地域活性化事業以来、毎年邦楽のアウトリーチ、ワークショップ、コンサート等を開催してきました。その年によって規模の大小はあっても、今後とも邦楽事業に取り組んでいきたいと思っております。

② 地域交流プログラム報告 ①山鹿市

山鹿市担当コーディネーター

[公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 実演芸術振興部企画室長 谷垣内 和子]

温泉と灯籠祭りで有名な山鹿市。かつて宿場町として栄えた町の中心を豊前街道が走る。その一角に国の重要文化財に指定された芝居小屋「八千代座」がある。ここが、今回の拠点だ。明治43年（1910）創建の劇場は江戸時代以来の芝居小屋の機構を備え、豪華な天井広告絵やシャンデリアが往時の姿を今に伝える。その再生復興への道のりには、地元の人々の地道な弛まぬ活動があったと聞く。今日では人気歌舞伎役者による公演も行われ、いつも見学者が絶えない。地域の文化シンボルであるだけでなく、日本を代表する芝居小屋の一つとして注目されている。

メンバーは、箏曲演奏家で作曲活動も行っている本間貴士さんをリーダーに、箏曲と薩摩琵琶の両方をこなす多田彩子さん、石見神楽の出身で横笛演奏家の澄川武史さんの3人。日ごろから活動を共にする仲間だ。十三絃の箏以外に十七絃・二十五絃箏、琵琶、篠笛・能管・神楽笛と扱う楽器も幅広い。琵琶の語りや神楽歌という声の表現も加わる。古典音楽の世界ではあり得ないユニットである。今回は、二十五絃箏と薩摩琵琶、複数の横笛を活用するプログラムで実施することになった。

テーマは『『想像』と『創造』』。演奏を通じてさまざまな事象や心情などを想像する。「想像する力」は「創造する力」と深く結びついていることを知って欲しい。アーティストとして、本間さんが最も大切にしていることだ。

彼は日本の歴史や古典文学にも造詣が深く、日本語や声を活かした作品づくりにも積極的である。いつも何かしら楽しいこと、子どもたちをひきつけるアイデアを見つけようとする一方で、周囲への気遣いも怠らない。その意図を尊重しながらもきちんとポイントを押さえて行く多田さん。距離を保ちながら自らの役割を着実に果たす澄川さん。それぞれの個性と専門性をうまく活かしたプログラムとなった。

個別の楽器紹介は必要最小限に留め、イマドキの若者らしく、教室にある電子黒板をフル活用。くまモンをはじめ、3人の出身地のゆるキャラまで総動員して、テーマとキーワードを分かりやすく提示。イメージを引き出すための画像にも動きを加えて、子どもたちの心をキャッチした。

取り上げた曲目は、楽器の演奏だけで聞かせる《祇園精舎》《知波夜夫留》と、良く知っているストーリーの語りに演奏を添えてイメージを増幅させる《鶴の恩返し》。すべてが自作であり、ライブ経験の豊富さが柔軟な進行につながった。

しかし改めて振り返ると、多忙なアーティストと現場スタッフの間で、担当者にはスケジュール調整等でご苦勞をおかけしたように見受けている。課題があっても即応できない局面もあり、情報共有が万全だったとは言い切れない。コーディネーターとして、アーティストと現場とをつなぐ役割を十分に果たせたかどうか。反省すべきことは多い。

ワークショップは箏と篠笛で実施し、熊本のわらべ歌として有名な「あんたがたどこさ」を本間さんが編曲。箏は、初心者と地域で箏を学んでいる子どもたちの2グループに分けて、篠笛も交えた合同演奏を目指した。最後は八千代座の本舞台上で、保護者や居合わせた観光客を前に全員による成果発表。予期せぬ桜吹雪の特別プレゼントもあって大いに盛り上がった後、客席でアーティストたちの演奏を鑑賞して終了。

経験のあるチームでは、新曲の五線譜での合奏指導が新鮮だったらしい。また、初めての子どもたちにも箏への興味を増すきっかけになったようだ。篠笛も関心の高い子どもが参加し、予想以上の成果につながった。とりわけ八千代座のスタッフの温かく惜しみない協力と、場が持つ力の大きさを痛感した。

リーダーの本間さんの個性と思い、日ごろの活動がうまく生かされたことに加え、山鹿出身の箏曲演奏家の協力も大きかった。地域との良好な関係性を保ちつつ、次につながるプログラムモデルの一つになったのではないかと感じている。

② 地域交流プログラム報告 ①山鹿市

山鹿市担当者

[一般財団法人山鹿市地域振興公社（八千代座）石橋 和幸]

1. 事業全体に対する所感

邦楽というと、古典的であり年齢を重ねないと理解できない難しい音楽というイメージがあるかと思います。小学生がその邦楽に触れる事業ということで、このイメージの関門を開けられず、演奏提供のみの形式的な内容になるかもと、当初は不安がありました。しかし、実際にやってこられた演奏家たちがとても若く、個性的であり、子どもたちが親しみやすい雰囲気を与えておられることから第一の関門が開きました。内容もコーディネーターさんと入念に協議され、子どもたちに歩み寄っていく内容であり、当初の不安は無くなりました。

今回は邦楽でしたが、自分が目指す道を努力を重ねながら進んでいる若い人たちと、子どもたちが出会えるこうした機会は、子どもたちに将来の希望を抱かせるものではないかと思い、とても貴重な事業であると感じました。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

邦楽アウトリーチに関しては、十分に検討された内容であることが分かりましたので、特に苦労した点はありません。準備では、邦楽の知識が乏しいこともあり、楽器の手配や椅子はピアノ椅子が必要であることなど気がまわらないところがありました。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

地元の箏演奏家の方にご協力していただき、助言を得ながら対応しました。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチの最後に子どもたちが自由に楽器にさわれる時間がありました。子どもたちがとても興味深そうに、楽しそうに楽器を鳴らしている姿を見て、邦楽を身近に感じてもらえたのだなと実感しました。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

重ねてですが今回のアウトリーチはコーディネーターさんたちのバックアップにより十分に協議、検討された内容でした。我々はこれほどの知見や人材を有してはおりませんが、地域の邦楽家の方々と協力して、子どもたちに邦楽に触れてもらう機会をつくっていきたいと考えています。

② 地域交流プログラム報告 ①山鹿市

山鹿市担当演奏家

[代表者] 本間 貴士

1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

和楽器を通して何を伝えたいのか、伝えるのか、そして伝わるのか、その根本的な部分に悩みました。結果的に自身のこれまでの経験で培った“想像と創造”をプログラムテーマにすることとしましたが、対象学年によっては難しい表現となってしまう言葉の言い回しや意味合いを時には噛み砕き、時には取替えて難しそうに伝える。この柔軟性が大変必要なことではないかと思えます。

がちりと曲やトークの時間配分から内容を決めすぎてしまうと、それぞれの学校や学生の色に合わず、押し付けの授業となってしまう危険性もあるのではないのでしょうか。

2. アウトリーチの中で子供たちの反応で心に残ったエピソードについて

今回、パワーポイントを使いアウトリーチの進行を行いました。

熊本県にあやかり、ゆるキャラの“くまもん”やメンバーの出身地のゆるキャラにも随所に登場してもらい学生達とのやり取りも終始穏やかなものとなりました。

どの学校でも授業が終わっても皆帰りたがらず、それぞれの楽器を触りたい！演奏してみたい！という気持ちが強く伝わってきました。ある学校では急遽体験の時間もとることができ我先にとやってくる子供たちの笑顔が忘れられません。

3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

私たちが担当させていただいた山鹿市にはかの有名な八千代座があり、古くから舞台芸能は盛んであるようで、灯籠踊りによへほ節、地域の子供らの多くが経験をしているようでした。今回、山鹿市にゆかりのある地元の箏奏者“小路永さん親子”にもご協力を賜り、八千代座の皆様、山鹿市職員の皆様、熊本県立劇場の皆様のお力添えでアウトリーチ並びにワークショップを円滑に遂行することが出来ました。



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



ワークショップの様子



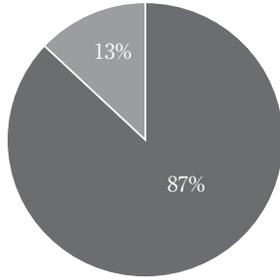
ワークショップの成果発表

参加者の声<アウトリーチ実施校>

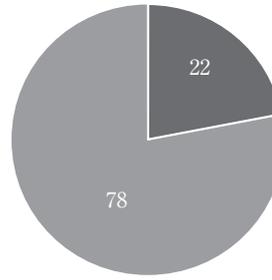
アンケート児童版……106名回答

今日の授業は楽しかったですか？

楽器の演奏を間近で聴いたことがありますか？



■とても楽しかった ■楽しかった



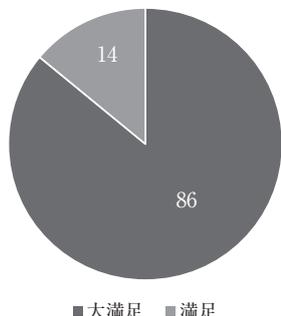
■あった ■なかった

児童の感想

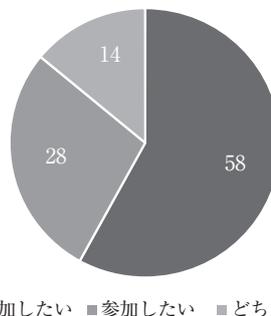
- ぼくは今日の授業で最初どんな楽器でどんな演奏なのかわくわくしました。3種類の楽器で音楽を聞いて今までの楽器とは違う音を感じました。今日とても素晴らしい音楽を聞くことが出来て、いい経験になりました。これからこれまでよりも音楽や楽器に親しもうと思いました。
- 笛で長いと低い音で短いと高い音が出るのが不思議でした。箏の絃がとても硬かったです。風の音や雪の音などを楽器で弾いていたので、本当に風や雪を感じました。
- 私は今日の授業でこのように箏や琵琶や笛の生演奏は聴いたことがなかったので、和楽器は沢山の音が聴けるし、音が一緒になることでキレイな音が聴けるということがわかりました。特に最後の「鶴の恩返し」の曲は強くなったり、小さくなったり物語を想像しながら聴くことができました。和楽器の演奏は想像しながら聴けるんだなと思いました。
- ぼくは今日の授業で箏や琵琶、笛を一緒に演奏していてとても音が響いていてキレイな音だったことが一番印象に残りました。また、ぼくは想像力を豊かにしてもっと音楽に親しみたいです。いつか機会があったらぜひ演奏してみたいです。とても感動しました。今日は本当に勉強になりました。

アンケート先生版……7名回答

アウトリーチについての満足度



次年度以降も参加したいですか？

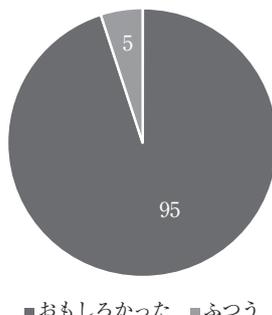


先生の感想

- 給食の時間から、子ども達と触れ合ってもらったことでより関心が高まった状態で邦楽教室に参加できました。邦楽のことだけでなく生き方についてのお話もあり、子ども達の心に響いたと思います。
- 間近で和楽器の生音、生演奏を聴くことができたことも、演奏しておられる様子をじっくり観ることができたことも、子ども達にとって学び多い時間となりました。また、音楽との出会い、音楽を大切にされてきた思いをお一人お一人聞くことができたのも夢に向かって良い学びになりました。
- お話も分かりやすく、あっという間の時間の中で豊富な学びができる本当に豊かな時間でした。
- バーチャルな世界に触れることの多い子どもたちにリアルな体験をさせることは大切だと思います。人間の想像と創造の可能性を感じさせたいです。

<ホールプログラム（ワークショップ）>……20/23名回答

本日のワークショップについて



ワークショップ<感想>

- なかなか会えない人と楽しくワークショップが出来たので良かったです。普段はやらないことも出来たので楽しかったです。今日教えていただいたことはおこと教室の時にも活かしたいと思いました。
- 箏を初めて弾いてみて絃が固いからびっくりしました。だけど練習したらよく弾けるようになったから嬉しかったです。最後は全然弾けなかったけど初めて弾いたから楽しかったです。
- 初めて五線譜で弾いて縦譜より弾きやすかったです。本間先生が色々なことを教えてくれて良かったです。トレモロの仕方なども教えてもらって上手になりました。本番では失敗した所があったけれど良い思い出になりました。
- 初めて箏を弾いて、箏が大好きになりました。

② 地域交流プログラム報告 ②荒尾市

荒尾市担当コーディネーター

[邦楽演奏家、NPO 法人日本音楽集団 副代表 米澤 浩]

「和楽器」はカッコイイ？

今年度担当したのは、渡部祐子さん（リーダー／箏・三絃）・田辺しおりさん（尺八）・本田浩平さん（津軽三味線）3名のチームで、荒尾市で地域交流プログラムを行った。

今年度の報告は『渡部チーム』の地域交流プログラムの成果だけでなく、音楽的な成果にも触れて書き進めたい。

実は、私も属する邦楽界では「津軽三味線が現代アンサンブルに加わる」事例が少なく、そのため「津軽三味線はアンサンブルに加わることは難しい。」という印象に「何となく支配されて来た」気がするが、これは「漠然とした印象」に大きく影響を受けているだけに思える。

個人的には「漠然とした印象」を否定する例（演奏）を知るため、『渡部チーム』がどのようなORとホールプログラム（以下、HP）を構成するか非常に楽しみであった。

最初に東京で行った「チーム会議」での『渡部チーム』との話し合いは、下記のポイントから始めた。

- ・CDやDVDの鑑賞ではなく、「生身の演奏家が子ども達の前に立つ意味は何か？」
 - ・「何を子ども達に伝えたいか？」、そして「何を子ども達に感じて欲しいか？」
 - ・ORにおける「自分達でなければならない必然性は何か？」
- いずれもORプログラムの構築時に「軸足」となるポイントだと思っている。

手法開発のキャンプで『渡部チーム』が構築したのは、《和楽器ってカッコイイ!!》と題したORプログラムだった。

当然のことだが、演奏者3名の楽器との出会いや年代は異なり、現在に至るプロセスも異なっている。そのそれぞれの「今に至るプロセス」や「一番聴いて欲しいと思う音楽」を軸にしてプログラムを構成した。

演奏家が個人史を語り、自分が大事に思う作品を聴いて欲しいと願って子ども達の前に立つORは、他に比肩するものが無いプログラムとなる。これに加え、箏だけでなく三絃も得意とする渡部さんが「地歌」の三絃も演奏して津軽三味線との比較も盛り込み、三味線という楽器の種類についても紹介するプログラムとなった。

そしてプログラムの最後には「箏・尺八・津軽三味線のトリオ」でのアレンジ作品で幕を閉じる構成だが、それがサウンド・オブ・ミュージックの〈私のお気に入り〉であったことは、ORの全てを通して「自分達のお気に入り」を伝えたいと願ってと理解した。

3名のアンサンブルで幕を閉じる構成は全体としても自然な流れであったし、アンサンブル（演奏）自体も大変自然な仕上がりとなり、前述の「漠然とした印象」を実演で覆すものとなった。

最終日のHPは、荒尾総合文化センターさんのご尽力で大盛会となっただけでなく、熊本県立劇場のホールスタッフさんまで加わっての全面的サポートを頂いた。

実は、『渡部チーム』のORには多くの申し込みを頂きながらも実施出来たのは3校のみであったが、HPのコンサートにORに伺えなかった3校485人の児童生徒さん達が観客として来てくれることになった。これを聞いた『渡部チーム』は、HPの第一部ではORを再現することにし、これに加えて第二部では自分達の選曲だけでなく文化センターからご提案頂いた地元箏曲家の先生方や民謡に取り組んでいる幼稚園児との共演も盛り込み、文字通り荒尾総合文化センターでなければ出来ないHPとなった。

『渡部チーム』は《和楽器ってカッコイイ!!》と題したが、3名の人柄を互いに活かした進行と子ども達に向き合うそれぞれの姿勢により、子ども達に伝わったのは《和楽器のカッコ良さ》ではなく《和楽器奏者のカッコ良さ》であったと思う。

『渡部チーム』の3人に接した荒尾の子ども達の中から将来の和楽器奏者が生まれることを心から願う地域交流プログラムとなり、その成果は『これぞORの真骨頂』とも感じるものとなった。

② 地域交流プログラム報告 ②荒尾市

荒尾市担当者

[中央設備 ステージ・ラボ共同体（荒尾総合文化センター）田中 三木夫]

1. 事業全体に対する所感

普段あまり馴染みのない邦楽の分野で、アウトリーチ対象校の子供達の反応について最初は心配していた、すべての学校の児童たちは真剣に最後まで聞き入っていたことに、まず、嬉しい驚きを感じた。ゲーム機で育った今どきの子供達もまんざらじゃない。普段身近では見ることのできない楽器なのもあるだろうが、演奏家の真剣な演奏に引き込まれていたように感じた。また、学校の先生方の対応も協力的で大変助かった。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

この事業は途中から引き継いだ事業だったため、最初は中々全体像がつかめなかった。まず、対象の学校を回りアウトリーチ事業の認識を共有することから始めなければならなかった。また、最終日のホールコンサートは平日の昼間ということで、料金は低額の設定が出来るものの、集客はかなり難しいと感じた。邦楽を实际演奏している方々は別として、日常での邦楽への関心は決して高いものとは言えず、広報活動に対する反応は薄かった。しかし、箏や尺八、三味線の本格的な演奏を聞ける機会はめったに無く、一人でも多くの観客を集めたかった。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をされましたか

コンサートの集客について、市内を中心に邦楽演奏等の関係者へのアプローチを行った。人数は限られていたが、普段経験できないプロとの共演を企画した。地元演奏家のプロとの共演が現実的な話となると、地元演奏家の人たちからも集客に多大の協力を得られた。また、ある幼稚園で民謡を唄うグループがあることが分かり、プロの演奏家の演奏で歌う企画を提案し、賛同を得たのも大きかった。それに、アウトリーチを希望したにもかかわらず、選定されなかった市内の3つの小学校の児童（480名）を招待する計画が当初から組み込まれていたため、結果的には1200席のキャパの6割近くを埋めることが出来た。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じましたか

子どもたちに邦楽の素晴らしさが確かに伝わったと実感しています。子供達は箏や尺八や三味線の澄んだ、時には激しく、時には優しい音色に引き寄せられていた。

日本人の持つDNAを刺激しているのかもしれませんが、また、楽器そのものへの関心も生まれていたと感じました。ただ、子供達からの質問を受ける時間が取れていないのは残念です。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

観て、聴いてその次は触って、演奏する。時間的な制約の中ですべてをやることはできないにしても、今後の課題だと感じました。また、アウトリーチの方式をホールが主体となり、自主事業として考えるべきではと感じました。

② 地域交流プログラム報告 ②荒尾市

荒尾市担当演奏家

[代表者] 渡部 祐子

1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

子供達に生の演奏を聴いてもらう意味は何か？リーダーとなり、一緒に演奏をしたいと思えるメンバーを選んだ意義は何か？と考えた時に、純粋にそれぞれの和楽器が持つ魅力、かっこよさを知ってもらいたいと思った。メンバーが自分の楽器と出会えた経緯、そして、自分達が演奏している楽器の特徴や伝えたいそれぞれの楽器の魅力を発揮出来るプログラムになるよう心がけた。

2. アウトリーチの中で子供たちの反応で心に残ったエピソードについて

メンバーそれぞれのニックネームを決めてのプログラム実施だったが、その事が給食交流での子供達との交流をより楽しく密なものにしてくれたように思う。演奏会形式のプログラムであったが、子供達の中には正座をして背筋を伸ばして聴いてくれている子達もいて、こちらの演奏姿勢もより伝えたい気持ちが濃くなっていった。

3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

今回は私の故郷熊本での実施だったが、子供達の反応や身近に和楽器がある子供達もいて、改めて邦楽が盛んな地域であると再確認出来たように思う。最終日のホールプログラムでは、荒尾総合文化センターさん、熊本県立劇場のスタッフの方々の多大なお力添えもあり、地域の幼稚園の子供達とも民謡で共演する事が出来、邦楽のみならず地域に根づいた文化と一緒に作り上げる事ができ、とても感慨深かった。

4. 今回のプログラムを通じて自身の変化について

今回のプログラムは、「和楽器ってカッコいい！」をテーマに、箏 津軽三味線 尺八のそれぞれの和楽器の魅力や強み、かっこよさを伝えたいと願い考えた。

なかなか共演する機会のない津軽三味線とのプログラムは試行錯誤が多かったが、メンバーの人柄や奏者自身の楽器との出会いや楽器自身の歴史、純粋にかっこいいと思う音色、曲を自分たちなりに自信を持って伝え演奏出来たと思う。回数を重ねるごとによりこうした方が伝わったのではないか、こんな方法もあったのではと色々と湧き出てきたが、それがすぐ実演出来ない不器用なところもかなりの反省点である。

1つのプログラムにこれだけの思いをかける事はなかなかない。

自分達の誇れるものをより多くの子供達に伝えていきたいと気持ちを新たに進んでいこうと思う。私にとってはそれが和楽器、伝統芸能であったが、子供達にとっては形は違えど自分の人生をかけて誇れるものを見つけてほしいと思う。

[Ⅲ. 平成29年度 事業報告]



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



コンサートの様子

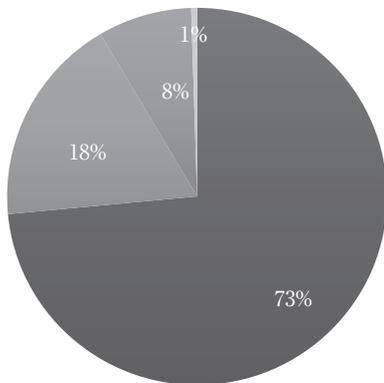


コンサートの様子

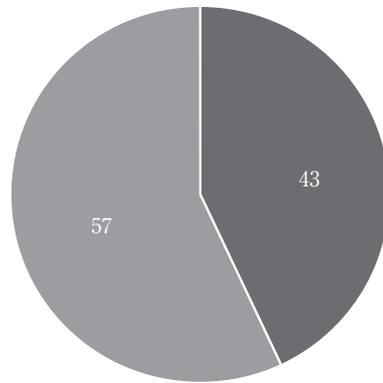
参加者の声＜アウトリーチ実施校＞
アンケート児童版……142名回答

今日の授業は楽しかったですか？

楽器の演奏を間近で聴いたことがありますか？



■とても楽しかった ■楽しかった ■ふつう ■楽しくなかった



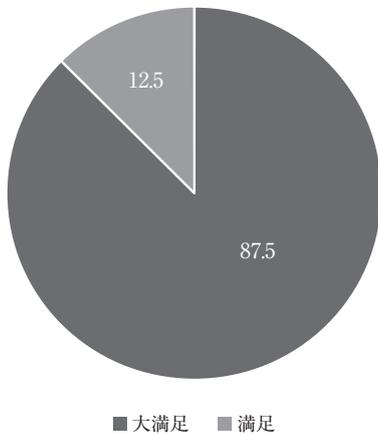
■あった ■なかった

児童の感想

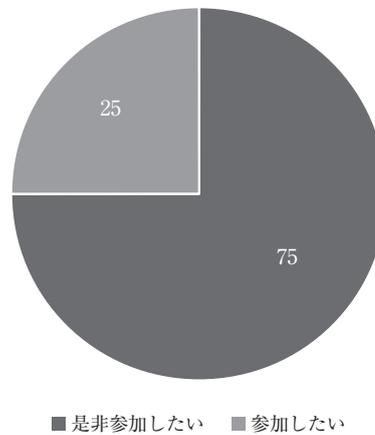
- 尺八のすごさが心に残った。三味線の迫力がすごかった。尺八は穴が5個しかないのに、ドレミファソラシドが弾けてすごいと思った。穴を1/4押さえるなどして音程を変えているという話などを聴いてびっくりした。
- 私はまだ和楽器に興味を持っていなかったけど邦楽アウトリーチで和楽器のカッコ良さに気づきました。とくに尺八、箏、三味線の3つの音が合わさったところが心に残りました。また聴いてみたいし、自分でも出来れば演奏してみたいと思いました。
- 音楽の授業でCDで聴くよりも迫力があって音色がとてもきれいでした。
- CDよりもめっちゃ音がきれいでした。生で見たのは初めてでした。箏とかを弾いてみたいなって思いました。とってもいい経験になったと思いました。

アンケート先生版…… 8名回答

アウトリーチについての満足度



次年度以降も参加したいですか？

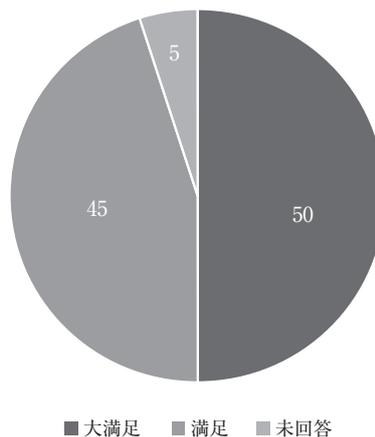


先生の感想

- 和楽器の詳しい説明や魅力を伝えていただき、子どもたちの興味もとても高まった。
- とてもいい経験になったようです。和楽器の魅力だけでなく夢中になることをもつこと、やりたいことに熱中することの大切さなども教えていただき、良い学習になりました。
- 和楽器の演奏を聴く機会はめったにないのでとても貴重な時間でした。
- 迫力ある演奏を聴くことができ、子どもたちの印象に強く残ったと思います。

<ホールプログラム（コンサート）>……20/168名回答

コンサートの満足度



コンサート<感想>

- 出演者の熱意に打たれた。内容も大変良く、楽しみ癒された。
- 楽器の説明や音を聴かせてもらえてよかった。
- 生の和楽器の演奏がすばらしかった！
- 子どもたちの出演はかわいく、次の世代へとつないでほしい。

② 地域交流プログラム報告 ③天草市

天草市担当コーディネーター

[音楽企画コーディネーター 楠瀬 寿賀子]

長崎県島原市に面した複数の島をつなぐ天草市は、熊本県内で3番目の人口を擁する市で、かつてキリスト教の布教に対するキリシタン弾圧や島原・天草の乱などの歴史をもち、いまでも数々の教会などが観光スポットして人気を博している。ここでは、3人の尺八奏者による3つの小学校4クラスのアウトリーチと天草市民センターでのコンサートが実施された。

広大な天草市の中心となる本渡地域にある市民センターを拠点に、車で30分ほどの浦和小学校、五和小学校とそこからさらに1時間以上離れた志岐小学校、という、かなり広い範囲に向かった。

アウトリーチでは、尺八を吹く虚無僧の様子を模した曲で始まり、尺八ができあがるまでをプロジェクターの画像を交えて説明、長短とりませたいろいろな尺八を紹介したり、リコーダーや塩ビ管で作られた尺八を聴き比べるクイズなどを行い、また、子どもたちに馴染みのあるアメイジング・グレイスを尺八で演奏し、最後には3本の尺八で子どもたちを囲んで演奏する「鹿の遠音」と工夫を凝らした内容であった。

このトリオは大まかな構成は設定するが、クラスごとの子どもたちのやりとりの中で臨機応変に要素を変えていく、というやり方で、子どもたちの心をつかむ柔軟性では一定の効果は見られたが、まれに話の流れが前後するなど多少ちぐはぐになる場面もあり、今後一考の余地があるように思われた。

天草市民センターでのコンサートは、前半を天草三曲会との共演、後半をトリオの演奏という構成とした。

天草三曲会は地元の尺八・箏・三絃の愛好者の団体で、流派を問わず三曲演奏を楽しんでいるという。三曲会の方々と尺八トリオ全員の演奏による2曲と、神さんの尺八と箏との「春の海」、そして三曲会の尺八奏者を交えた「尺八四重奏曲」という、バラエティに富んだプログラムとなった。全員で演奏したうちの1曲、古閑裕而の作曲による「天草の雨は」という歌の邦楽合奏版では、会場のお客様の多くが一緒に歌われ、和やかな雰囲気の中で前半を終えることができた。

後半は尺八トリオの演奏。緞帳が上がるとそこには、薄暗い中にろうそくの形をした小さな照明器具がたくさん灯された、幻想的なステージがあらわれる。アウトリーチの冒頭でも演奏した尺八を吹く虚無僧の様子を模した曲で、舞台上でのソロから始まり、客席後方から他のふたりが吹きながらあらわれて、会場全体が尺八の音で包まれる、という尺八ならではの演出によって、客席は一気にその世界に引き込まれたようすであった。

つづいて、二重奏による「鹿の遠音」、ソロによる「調・下り葉」、そして「三本の尺八によるソネット」と、尺八の響きやハーモニーの魅力をさまざまに聴かせる3曲で本プログラムは終了、アンコールでは打って変わって現代的な作品「青風」で幕を閉じた。

698席という邦楽の演奏会には大きめのホールだったこともあって、満席とはならなかったが、お客様には概ね好評だったと思う。なにより、地元の愛好家たちとは複数回の練習や本番を通して交流が図られ、お客様からの共感も得られたことが大きな成果としてあげられるが、今回のトリオのリーダーである神さんの企画力も高く評価できる。

三曲会との共演ではPAの使用や先に記載した照明器具など準備に手数がかかったと思うが、センターの湯貫所長を筆頭に技術スタッフのみなさんにはきめ細かくご対応いただき、スムーズにコンサートを運営することができたことに感謝する。

熊本市でのガラコンサートでは、ここでも客席後方から演奏家が登場する演出で、ホールの照明のプランなど、県立劇場の事業スタッフや技術スタッフに迅速にご対応いただき、演奏家の考えを十分に活かしたステージとなったことに感謝している。

② 地域交流プログラム報告 ③天草市

天草市担当者

[一般社団法人天草市芸術文化協会（天草市民センター） 湯貫 登]

1. 事業全体に対する所感

邦楽は一般的な印象だと日々の生活からは程遠くまた、神仏のお祭りや民謡などとも一線を画すイメージが強く、なじみが薄いという認識があり、どのようにアプローチすべきか、全く見当がつかなかった。また、アウトリーチとしての学校側の受け入れについても心配で、当初は行政の事務連絡での募集にとどまり学校側からの反応もなく、その不安が的中したと思っていたが、以前より懇意にしていた校長先生や音楽担当教諭に直接ご案内してみると意外に反応が良く、大変快く引き受けていただくと同時に逆に感謝されるほどで、普段なじみがないものほど、教育現場へアウトリーチすることの意義深さを感じた。また音楽の授業で3学期に邦楽が登場するタイミングと旨く合致したことも、その要因になったと思う。

ホールプログラムでは地元との交流を狙いチームに合わせて尺八を含む三曲の愛好家団体へ出演を依頼したところ、神リーダーと主宰の平田氏との打ち合わせもスムーズに進み準備期間の短さにもかかわらず、納得のいくプログラム構成が出来上がった。しかしその状況とは裏腹にチケットの配券が伸び悩み焦りの中で、アウトリーチ、コンサート当日を迎え、集客面で課題を残す結果となってしまった。コンサートの内容に関してはその演奏のクオリティーの高さはもとより、感動、満足といった好評が大方を占めた入場者アンケートからも、邦楽に対する概念を払拭しうる親しみやすい環境を創り、たくさんの方に鑑賞して頂ける機会を増やす施策が必要だと痛感した。

2. 邦楽事業実施にあたり、苦労した点

コンサート開催にあたり告知活動での反応の薄さに閉口させられた。事業全体に対する所感でも述べた通りに、日々の生活から程遠い存在と感じての物珍しさからの反応のあとは何もなく、盛り上がらない、掘り下げない、話題が続かない。こちら側としても、その素晴らしさを伝える術を持ち駒の少なさも災いしチケット配券の伸び悩みに苦労した。兎にも角にも来場者を増やす目的で、アウトリーチ直前に児童と教職員への無料招待を提案してみるものの、新年が明けて間もないことや新学期早々ということもありスケジュールが合わず希望があったのは各校ひと家族ずつ。観客動員数は残念な結果となり演者の皆さんには大変申し訳なく思っている。

3. 苦労したことを解決するにあたり、どのような工夫をしたか

地域の邦楽愛好家や文化団体への協力要請・行政広報誌への掲載・アウトリーチ実施校への協力依頼と無料招待の提案・地元ケーブルテレビ、コミュニティFMでの広報依頼と宣伝出演・FacebookなどSNSでの告知・センター来場者へのチラシ配布など、またポスター掲示を依頼したコンビニエンスストアやスーパーへの再訪やチケット委託先への販売推進の依頼など、可能な限り広報活動の範囲を拡大しその頻度を詰めたりした。

4. 今回の邦楽事業に関わることで、どのような成果を感じたか

アウトリーチプログラムでは、受入れ校が決まった後の地域担当としてのコーディネートに関しては以前、他のワークショップで学校現場へ出向いていた経験から、戸惑うことなく進められたが、今回の成果として特に感じたことは、日頃馴染みのない邦楽の生演奏の醍醐味を目の前で感じてもらえる機会を提供できたこと、また教育現場で受け入れる先生方からも普段接することのない世界に興味を示して頂いたことで、邦楽演奏が持つ他にはない訴求力の強さを感じることが出来た。ホールプログラムでは地元愛好家と演奏家をつないだことで、愛好家の方々の今後の活動に弾みがつき文字通り邦楽の活性化につながる一端が見えてきた気がする。

5. 今回の邦楽事業を受けての今後の事業展開や展望について

天草市民センターは今年度より指定管理者制度を導入し、私ども一般社団法人天草市芸術文化協会が4月より管理運営をお引き受けしたばかりである。昨年の準備段階より今回の邦楽活性化事業のお話をいただき、自主文化事業のひとつとして取り組ませて頂くことが出来た。今回の経験を活かし地域の文化ホールとして様々な分野の活性化に繋がるような事業を熊本県立劇場や地域創造の協力を頂きながら今後も展開して行ければと考えている。

② 地域交流プログラム報告 ③天草市

天草市担当演奏家

[代表者] 神 令

1. プログラムを作り上げる際に大事にしたことについて

子供達に寄り添う事は念頭に置きながらも、子供向けのプログラムを作るのではなく、大人達が深く考え、気付く事を促すよう留意した。具体的には、音響のサラウンド効果を用い、音を一つの方向からではなく多方向から鑑賞し、耳の指向性の違いによる音響の変化などを体験させた。結果として、通常の音楽鑑賞（演奏会場やイヤホンなど）では感じる事のない体感を得る事が出来た。また、一過性の鑑賞授業として完了するのではなく、教員や子供達にとって身近な素材を用いた模擬体験方法の紹介を行い、楽器自体に触れるまでの導入要素として取り入れた。

2. アウトリーチの中で子どもたちの反応で心に残ったエピソードについて

学校の子供達は常に担任をはじめとした教員を観察しており、教員達の興味のベクトルと比例して子供達の反応に変化があったように感じた。給食交流や授業後の教員の質問に端を発して子供達も積極的に質問や疑問をメンバーにぶつけてくる事があり、大変有意義な時間となった。

また、プレ公演の大江小学校とは別事業での交流があり、震災復興を支援する過程で見えた様々な事象の裏付けを改めて感じる事が出来た。（文化庁の震災復興のためのアートプロジェクトを大学にて後方支援していたため。）

天草の三つの小学校（志岐小学校、浦和小学校、五和小学校）では、実直な子供達との交流を重ねるなかで、段々と子供達が心を解放していく様子が、今回の一連の事業の意味を考える上で、自身の大切な経験となった。

3. 地域と関わったことから見えたもの、感じたことについて

熊本は古くから邦楽が盛んであり、受け入れる土壌が他の地域よりも優れていると認識していた。実際に子供達の身近に和楽器がある子供達もおり、今回のアウトリーチプログラムを通して、近しい人以外の演奏活動を知る機会となったのではないかと思う。また、自身の先祖からのご縁を深く感じ、一つのご恩返しを出来たのではないかと思う。

これから将来的に伝統芸能の伝承が難しくなっていく中で、地域性に根ざした活動が大切である事を改めて感じ、日本全国各地からの伝統芸能の集積地となっている東京から地方へと還元して行く事の必要性を再認識した。

4. 今回のプログラムを通じてのご自身の変化について

これまでに経験してきた小・中学校でのアウトリーチや鑑賞教室の経験を踏まえ、既存のあり方からの抜本的脱却を目指し、私自身のスタイルに捉われずに、メンバーそれぞれの個性を大事にするよう、本事業に取り組んだ。

結果として、やや煩雑なアウトリーチプログラムとなってしまった部分が反省点である。また、子供達の興味に対して事前のリサーチを行う事も必要であったように感じる。具体的には、子供達にとっての馴染みのあるメロディーなどを用いる事によって、より親近感を得る事が出来たのではないかと認識した。音楽としての尺八音楽と、我が国独自の伝統芸能としての尺八音楽との両面から、子供達にとって自分たち自身の音楽の一つであるという認識を少しでも感じてもらいたいと願う。本質を違う事なく、これからも多くの子供達やまだ本物の尺八音楽に出会っていない人々に伝えていきたいと思う次第である。



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



アウトリーチの様子



コンサートの様子

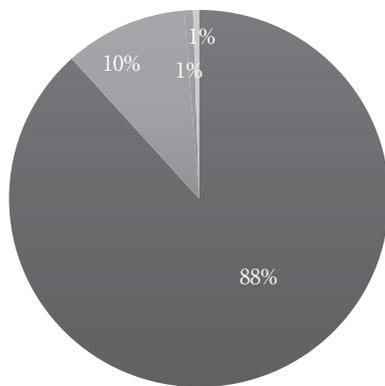


コンサートの様子

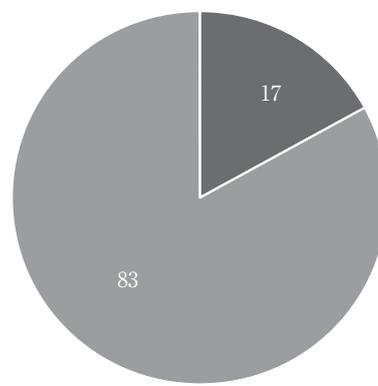
参加者の声＜アウトリーチ実施校＞
アンケート児童版……108名回答

今日は楽しかったですか？

楽器の演奏を間近で聴いたことがありますか？



■とても楽しかった ■楽しかった ■ふつう ■楽しなかった



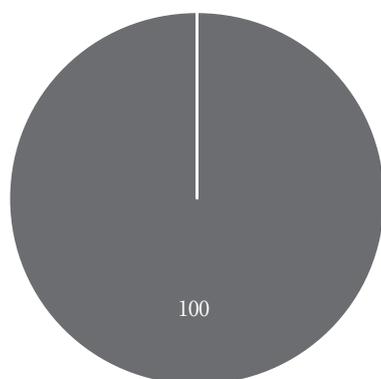
■あった ■なかった

児童の感想

- 3人の音がキレイでとてもハーモニーになっていたのすごかったです。私は吹奏楽部に入っています。3人のように、みんなと協力して色々なものにチャレンジしたいです。
- 今日の授業で尺八が長ければ音が低い、短ければ高いというのがわかりました。そして、青木さん、神さん、田嶋さんのように尺八を吹いてみたいになりました。絶対に忘れません。一生の思い出です。
- 尺八だけで風景や動物を表現できるのが印象に残りました。尺八のコンサートに行きたくなりました。とても楽しい1時間になりました。ありがとうございました。

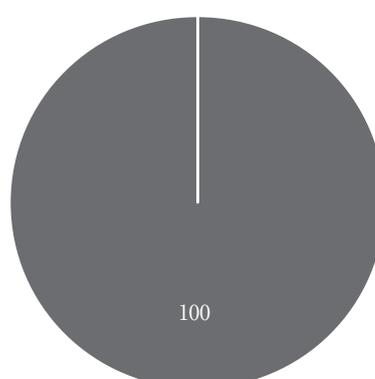
アンケート先生版……10名回答

アウトリーチについての満足度



■ 大満足

次年度以降も参加したいですか？



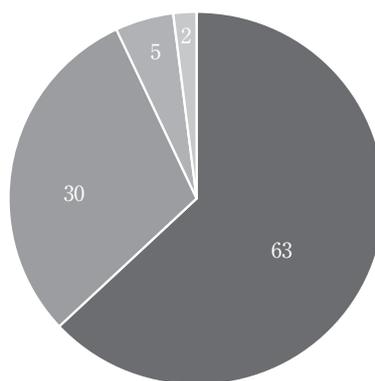
■ 是非参加したい

先生の感想

- 尺八の奏者の方と同じように体を動かしたり、顔の表情を似せたりする子ども達は、とっても楽しめていました。笑顔の中にも感動があることが分かりました。
- 少人数だったので、奏者と聴衆が間近で息遣いも聞き取れるくらいだった。そのため、感動も大きかった。
- 子ども達にとって「新鮮な驚き」の場でした。そのことは「豊かな感性を磨く」ことに繋がると思います。
- 私のクラス（支援学級）のお友だちも、「大きい笛、よかったね」とジェスチャーしながら話してくれました。私も生演奏初で、貴重な時間を頂きました。ありがとうございました。

<ホールプログラム（コンサート）>……58/78名回答

コンサートの満足度



■ 大満足 ■ 満足 ■ ふつう ■ 未回答

コンサート<感想>

- 邦楽を生で初めて聞いて尺八の音色が深くて良かったです。
- 表現が多様で驚きました。情景を想像しながら、いい時間を過ごさせてもらいました。ありがとうございました。

IV. 平成29年度 事業資料

平成29年度邦楽地域活性化事業 実施要綱

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、地域における芸術活動を担う人材の育成及び環境づくり、並びに日本の伝統音楽（以下「邦楽」という。）の継承発展に寄与し、併せて創造性豊かな地域づくりに資することを目的とし、都道府県等との共催により、公共ホール等を拠点とした、邦楽分野の演奏家（以下「演奏家」という。）による地域交流プログラム及び公演等に関する事業を実施する。

2 対象団体等

(1) 対象団体

対象団体は、都道府県等とする。

都道府県等とは、次の団体をいう。（以下「都道府県等」という。）

- ① 都道府県又は政令指定都市
- ② 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、都道府県又は政令指定都市の設置する公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③ 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益財団法人等（②を除く。）のうち、都道府県又は政令指定都市が資本金、基本金その他これらに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの

(2) 地域交流プログラム実施団体

- ① 対象団体が、都道府県及び都道府県に係る指定管理者等（上記(1)の②又は③に該当する団体をいう。以下同じ。）の場合

管内の市町村等より地域交流プログラムを実施する団体（以下「実施団体」という。）を選定する（原則として3団体）。

市町村等とは、次の団体をいう。（以下「市町村等」という。）

ア 市区町村（政令指定都市を除く。）

イ 市区町村に係る指定管理者等

なお、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合等については、地域創造と協議するものとする。

- ② 対象団体が、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合対象団体又はその近隣の市区町村（それらに係る指定管理者等を含む）が実施するものとする。

なお、近隣の市区町村が実施する場合の、団体の選定については事前に地域創造と協議するものとする。

3 事業内容

(1) 研修プログラム

① 全体研修会

対象団体は、実施団体の職員を対象に、邦楽分野による地域交流プログラム及び公演の企画・制作に必要な実践的ノウハウを取得するための研修会を開催する（原則として1回）。

なお、当該研修会は、文化行政担当者や公共ホール職員、教育関係者等に広く公開する内容を含むものとし、邦楽事業に関する情報提供の機会とする。

② 手法開発研修会

対象団体は、地域創造と協力して、対象団体及び実施団体の職員並びに演奏家を対象に、地域交流プログラム等に関する手法開発を目的とする研修会を開催する（4日間の連続した日程で1回）。

また、対象団体は、当該研修会において対象団体が選定した学校でアウトリーチ実地研修を実施する。

(2) 地域交流プログラム

実施団体は、原則として3日間の連続した日程で次の地域交流プログラムを実施する。

また、実施団体は、地域交流プログラムの実施に向けて、演奏家、コーディネーター及び対象団体等による、現地における事業打合せを実施する（原則として1回）。

① アウトリーチプログラム

学校等でのミニコンサート等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体4回）。

② ホールプログラム

公共ホール等において開催するコンサート又はワークショップ等により、地域との交流を図るプログラム（原則として1団体1回）。

なお、ホールプログラムにおいてコンサートを行う場合は有料公演とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

(3) 総括公演プログラム

対象団体は、総括公演（ガラコンサート）を実施する（原則として1回）。

なお、総括公演は有料公演とし、入場料収入は対象団体に帰属するものとする。

4 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。

ただし、下記以外の経費及び対象団体又は実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した超過分については、対象団体又は実施団体の負担とする。

(1) 演奏家に係る経費

事業参加に係る報酬（出演料、謝金等を含む）、現地移動費を除く旅費（地域創造の規定に基づく、以下同じ）、楽器運搬費、損害保険料、総括公演プログラムの合同練習に係る経費（会場費及び演奏指導を行う作編曲者の旅費等）を負担する。

(2) 対象団体が支出する経費

対象団体が支出する、研修プログラム及び総括公演プログラム実施に係る経費並びに地域交流プログラムの実施に係る経費（ホールプログラムに係るものに限る）のうち、別紙対象経費について、450,000円を限度として負担する。

なお、対象団体による演奏家選定に係る経費については、別途負担する。

対象団体が支出する経費の対象経費

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等人件費、会場借上料など
旅費・諸謝金	地域交流プログラム関連旅費、事業打合せ等旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	事業に係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

[IV. 平成29年度 事業資料]

(3) 実施団体等が支出する経費

実施団体が支出する地域交流プログラム実施に係る経費のうち、別紙対象経費について、1実施団体につき50,000円を限度として負担する。

なお、対象団体が都道府県及び都道府県に係る指定管理者等で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合や、政令指定都市及び政令指定都市に係る指定管理者等の場合で、対象団体自らが地域交流プログラムを実施することを希望する場合については、地域創造と協議するものとする。

実施団体が支出する経費の対象経費

項目	内容
音楽・文芸費	楽譜・楽器借料、作曲・編曲等謝金、著作権使用料など
舞台・会場費	舞台人件費、照明・音響費、楽器運搬費、会場整理等件費、会場借上料など
旅費交通費	業打合せ旅費
印刷製本費	チラシ・ポスター・プログラム・入場券等印刷費
消耗品費	地域交流プログラムに係る消耗品費
その他	その他事業の企画・制作に要する経費（振込手数料、印紙代を含む）

5 事業実施に対する支援

(1) チーフコーディネーターの派遣

地域創造は、主に対象団体に対して、演奏家の選定方法、事業計画の立案及び事業の円滑な運営に関する助言等を行うため、地域の芸術活動に詳しい専門家をチーフコーディネーターとして派遣する。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、主に実施団体に対して、事業担当者のコーディネート能力の向上及び地域交流プログラムのノウハウ蓄積に関する助言を行うとともに、演奏家に対して地域交流プログラム手法について助言を行うため、企画制作の経験が豊富な専門家をコーディネーターとして派遣する。

(3) アドバイザーの派遣

地域創造は、必要に応じて、対象団体の制作責任者（ディレクター）、チーフコーディネーター、コーディネーター及び演奏家に対し、企画内容についてより専門的な助言及び情報提供を行うため、企画内容に応じた専門家等をアドバイザーとして派遣する。

(4) 講師等の派遣

地域創造は、必要に応じて、研修プログラム実施時に講師等を派遣する。

6 提出書類等

(1) 事業申込書（別記様式1-1～1-3）

平成29年度に本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、平成28年9月9日(金)までに提出すること。

なお、2(1)②及び③に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること。

(2) 実施計画書、事業収支予算内訳（別記様式2-1～2-4）

本事業の実施を希望する都道府県等は、実施予定会場のパンフレット等を添えて、事業内容決定後すみやかに提出すること。

地域創造は、提出書類の内容を審査したうえで共催の可否を決定し、申請者に通知するものとする。

- (3) 実績報告書、事業収支実績内訳、負担金請求書（別記様式3-1～3-5、4-1～4-2）
事業終了後30日以内に、別途指示する関係書類を添えて提出すること。
なお、別記様式3-2及び3-3については、公開されることを前提として、プログラムのテーマ、開発された手法など具体的にその成果を記入すること。
- (4) 変更承認申請書（別記様式5-1～5-2）
共催決定通知を受けた後に申込み（申請）内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに変更承認申請書を提出すること。
なお、変更の内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

7 その他

- (1) 演奏家の決定
対象団体は、地域創造が選定した候補演奏家から事業に参加する演奏家を決定する（原則として3組、各3名まで）。
- (2) 共催の表示
対象団体及び実施団体は、事業実施会場及び事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。
【表示例】共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (3) 損害賠償の免責
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (4) 関係書類の提出
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、対象団体の決定又は負担金の支払い等の審査並びに事業報告書の作成に当たって、必要な書類の提出を求めることができる。
- (5) その他
事務手続き及びスケジュール等について必要がある場合は別途定める。
また、事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と対象団体が協議して決定する。

平成29年度 邦楽地域活性化事業 報告書

発行：一般財団法人地域創造

〒107-0052

東京都港区赤坂2-9-11 オリックス赤坂2丁目ビル9階

TEL：03-5573-4078

FAX：03-5573-4060

URL：<http://www.jafra.or.jp/>

発行日：平成30年3月

